

救急救命士学科

科目名	心理学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Psychology			総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	月	時限	3・4

担当教員	山川 祐介	実務者経験	大学心理相談室、小中高スクールカウンセラー、大学病院精神科に勤務。 心理面接や心理検査の業務に携わる。
------	-------	-------	--

学習内容	心理学に関する基礎的な事項について学ぶ。また、適宜、体験的ワークに取り組む。
到達目標	心理学に関する基礎的知識を獲得し、臨床現場や日常生活における出来事を心理学的視点から捉えることができる。 また、体験的な取り組みを通して、心理学的事象や自己についての理解を深める。

準備学習 時間外学習	知識的な内容について復習する。また、授業内で行った体験について振り返る。
使用教材	配布プリント
留意点 備考	

成績評価	期末テスト100点で評価する。
------	-----------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	心理学の概要	概要【心理学の歴史・心理学の諸領域】 心理学の歴史やその領域について理解し、心理学の概観をつかむ。
2	学習・記憶	学習心理学・認知心理学【学習・記憶・認知・行動・条件づけ・動機づけ】 学習や行動について理解する。また、認知や行動に着目し、その変化について理解する。
3	集団・社会	社会心理学【集団・社会・同調・認知的不協和・認知的均衡】 集団や社会における現象について、社会心理学的視点から理解する。
4	人格・発達	人格心理学・発達心理学【パーソナリティ・生涯発達】 パーソナリティの捉え方や生涯発達における各発達段階の特徴について理解する。
5	臨床・援助	臨床心理学【精神分析学・行動主義心理学・人間性心理学】 臨床心理学における多様な立場について理解する。
6	ストレス マネジメント	ストレスマネジメント【ストレス・コーピング・リラクゼーション】 ストレスに対するマネジメントやコーピングについて具体的に学ぶ。
7	まとめ	振り返り
8	試験	期末試験
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	解剖学・生理学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Anatomy・Physiology			総時間数	60	単位	4
学年	1	学期	前期	曜日	金	時限	1・2

担当教員	村上秀明、岩本悠里	実務者経験	村上秀明：大阪大学歯学部附属病院放射線科と医学部附属病院放射線治療科にて32年間の臨床経験。 岩本悠里：大阪大学歯学部附属病院放射線科で5年間、医学部附属病院放射線治療科にて5年間の臨床経験。
------	-----------	-------	---

学習内容	救急救命士となるにあたって必要な人体の解剖学と生理学を学ぶ。また、救急救命活動に必須となる人体の解剖学、救急救命処置の根源となる人体の生理学を習得する。
------	--

到達目標	人体の解剖学的諸構造と生理学的機能について、適切な解剖学用語と生理学用語を用いて具体的に説明できる。
------	--

準備学習 時間外学習	
使用教材	オリジナルサブノート・救急救命士標準テキスト（上巻）・ヒューマンボディ
留意点 備考	

成績評価	終講時の筆記試験で60%以上正解すること
------	----------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	人体を構成する要素	細胞・組織・臓器の構造と役割
2	人体を構成する要素	体液の組成と役割について学ぶ
3	体表からみる人体の構造	解剖学用語を学ぶ
4	体表からみる人体の構造	体表から観察される人体の構造を理解し、その名称を習得する
5	神経の解剖・生理	中枢神経について、その構造と役割について学ぶ
6	神経の解剖・生理	末梢神経について、その構造と役割について学ぶ
7	感覚器の解剖・生理	視覚器、聴覚器、平行感覚器について、その構造と役割を学ぶ
8	感覚器の解剖・生理	嗅覚器、味覚器、皮膚感覚器について、その構造と役割を学ぶ
9	呼吸器の解剖・生理	呼吸器の構成と役割を理解する
10	呼吸器の解剖・生理	呼吸調整のメカニズムを学ぶ
11	循環器の解剖・生理	循環器の構成と役割を理解する
12	循環器の解剖・生理	循環制御のメカニズムを学ぶ
13	消化器の解剖・生理	消化器の構成と役割を理解する
14	消化器の解剖・生理	栄養素の運搬と消化のメカニズムを学ぶ
15	泌尿器の解剖・生理	泌尿器の構成と役割を理解する

16	泌尿器の解剖・生理	尿生成のメカニズムを学ぶ
17	生殖器の解剖・生理	男性生殖器と女性生殖器の構造と役割を理解する
18	生殖器の解剖・生理	月経のメカニズムを学ぶ
19	内分泌系	内分泌器官の構造を学ぶ
20	内分泌系	各種ホルモンの作用部位と効果を学ぶ
21	血液と免疫	血液の組成、止血のメカニズムについて学ぶ
22	血液と免疫	アレルギーを含めた免疫システムについて学ぶ
23	骨、筋、関節	骨と筋の構造と名称を習得する
24	骨、筋、関節	関節と人体の役割について学ぶ
25	皮膚	皮膚の構造について学ぶ
26	皮膚	皮膚の役割について学ぶ
27	生命の維持	栄養と代謝などホメオスタシスに関わるメカニズムを学ぶ
28	生命の維持	呼吸、循環などホメオスタシスに関わるメカニズムを学ぶ
29	まとめとテスト	テストゼミ形式の復習、国家試験問題の解法を学ぶ
30	まとめとテスト	終講時のテストを行う

救急救命士学科

科目名	生化学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Biochemistry			総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	前期	曜日	木	時限	1・2

担当教員	赤星 映子	実務者経験	医学博士(生理系) 1973-2005まで大阪大学にて研究助手
------	-------	-------	------------------------------------

学習内容	ヒトの生命現象を元素・分子レベルでの化学的領域と、細胞・個体レベルでの生物学的領域を統合的に幅広く学習する。それにより疾患の成立原因と回復過程を生化学的に理解し、救命救急士としての基礎的知識の習得を目指す。
到達目標	生命維持のための代謝、代謝異常(糖代謝異常、アミノ酸代謝異常、脂質代謝異常)とその疾患について理解できる。ビタミン異常、そのほか電解質異常、栄養障害など理解できる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト 改定第 10版
留意点 備考	中間でミニテストの実施

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	生化学とは	高校までの履修度を把握して、化学・生物に必要な事項の整理が出来る 化学・生物で使用する用語を知る
2	栄養障害	TCAサイクルを理解する(エネルギー産生ということ)
3	代謝障害	糖尿病、低血糖、メタボリックシンドロームの概念、ビタミンの異常など
4	体液と電解質異常	体液の組成が理解できる
5	酸塩基平衡異常	PHの基礎知識、アシドーシス・アルカローシス
6	内分泌異常 ミニテスト	ホルモンの合成場所と働きと病気について理解する
7	総まとめ	全体的に理解不足のところを解消する。
8	テスト	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	病理学・法医学(法医学)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Forensic Medicine			総時間数	13	単 位	病理と合わせて1
学 年	1	学 期	前期	曜 日	水	時 限	3・4

担当教員	石田 季子	実務者経験	2016年4月より大阪大学法医学教室特任助教、大阪府監察医事務所監察医
------	-------	-------	-------------------------------------

学習内容	人体が死によってどのように変化するのか、原因ごとにどのような所見が見られるのかを学習する。また、死にまつわる公衆衛生的事項についても概説する。
到達目標	疾病や損傷などが人体の限界を超えて作用した、普遍的で不可逆で不可避な状態が死であるため、医療の場においてはいつでも遭遇しうる。法医学的知識の修得により、プロフェッショナルとして死者を遇することができるようになることが目標である。

準備学習 時間外学習	テキストを読んでおくこと。解剖学・救急医学などの復習がなされているとなおよい。
使用教材	救急救命士標準テキスト 改定第 10版、そのほかに適宜ハンドアウトを配布する。
留意点 備 考	科目の性質上講義資料や話題にセンシティブな事柄が含まれるため、学生にも医療人としての倫理と守秘を求める。

成績評価	終講義試験により評価する。
------	---------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	死とはなにか	死の定義や統計に見られる死の状況を知り、現代日本における死とのかかわり方を学ぶ
2	死体現象	生体にはみられず、死体にもみられる所見について学ぶ
3	内因性急死・中毒	疾病による死の中でも急死、薬毒物による中毒について学ぶ
4	損傷	人体が外部からの力を受けることで発生する傷害と、それにより引き起こされる結果を学ぶ
5	環境と死	温度変化など、周囲の環境による死や大規模災害による死について学ぶ
6	試験	
7	行政解剖	行政解剖見学
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	薬理学			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Pharmacology			総時間数	30	単位	2
学年	1 (Aクラス、Bクラス)	学期	後期	曜日	火曜日	時限	1, 2

担当教員	岩木一巳	実務者経験	2011～2018年度 武庫川女子大学・薬学部非常勤講師 2014～2021年度 城南女子短期大学・現代生活学科非常勤講師 2014年度～ 東洋医療専門学校・救急救命士学科非常勤講師
------	------	-------	---

学習内容	薬理学とは薬物が身体に及ぼす影響（主作用・副作用）やその作用発現メカニズムを研究する学問であることを学ぶ。救急救命士を目指す者として、取り扱いに関与する薬物のみならず、医療の分野で広く用いられる「薬」の知識を基礎から応用まで幅広く学習する。
到達目標	国家試験合格のレベルに留まらず、薬理作用、薬物療法についての一般的基礎知識を広く修得させ、救急現場で専門職としての実力を発揮できる救急救命士を育成する。

準備学習 時間外学習	事前および時間外の学習として、教本、資料概要プリント、補足説明資料等に目を通し、興味を持ったことや分からないところはインターネットや関連参考書を用いて調べる等、薬の作用に関する予習、復習を行うこと。
使用教材	テキスト（救急救命士標準テキスト：へるす出版） 理解力向上のため、自作の講義概要プリント、補足説明資料、確認問題を配布。
留意点 備考	必ず、毎回の授業後に確認問題を用いた自身の理解度をきっちり評価すること、さらに、教本や配布資料を読み返して、授業内容を振り返ることが望ましい。また、必要に応じて、参考書（救急現場の救急医療：荘道社、新ステップアップ 救急救命士国家試験対策 薬理作用：へるす出版）にも目を通すこと。

成績評価	期末の筆記試験（資料持ち込み不可）で評価する。
------	-------------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	薬物総論	薬理学と薬物、医薬品に関する説明、薬機法、薬理作用の発現様式、保存と保守管理
2	薬理作用の作用機序	薬物が作用を発揮する仕組み
3	薬物の投与経路と剤型	薬物の投与剤型、薬物の血中濃度・体内濃度（薬物血中濃度時間曲線）、各投与方法の利点と欠点
4	薬物作用への影響要因	用量作用関係（用量－作用曲線）と影響因子
5	薬物の体内動態(1)	薬物動態（ADME）、吸収・分布・代謝・排泄の詳細
6	薬物の体内動態(2)	上記内容の続き、薬物動態の変動要因
7	薬物の有害作用(1)	薬物使用時の各種有害作用についての説明
8	薬物の有害作用(2)	反復投与に関係する問題点、研究開発段階で得られる有害情報
9	救急救命士が取扱に関与する薬物(1)	消毒薬、輸液・輸血製剤
10	救急救命士が取扱に関与する薬物(2)	アドレナリン、乳酸リンゲル液、ブドウ糖
11	アドレナリンと自律神経系用薬(1)	アドレナリンを中心としたカテコールアミンや自律神経系に作用する薬物の概説
12	アドレナリンと自律神経系用薬(2)	上記内容の続き
13	注意を要する常用薬、諸症状に用いられる薬物(1)	慢性疾患薬など注意を要する常用薬、様々な症状に用いられる薬物
14	注意を要する常用薬、諸症状に用いられる薬物(2)	上記内容の続き
15	最終講義	講義内容全般（No.1～14）の振り返り、重要ポイントの説明
16	期末試験	自習時間を設けた後に筆記試験（50分）を実施

救急救命士学科

科目名	社会保障・社会福祉			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Social Security・Social Welfare			総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火	時 限	3・4

担当教員	中川 るみ	実務者経験	社会福祉士 1993-現在までソーシャルワーカーとして実務経験あり 社会福祉事務所所長
------	-------	-------	--

学習内容	社会福祉と医療、社会保障の関連について学ぶ 社会福祉の展開、低所得者対策、障害者福祉対策、年金制度について
到達目標	救急救命士に必要な社会福祉と医療、社会保障の関連について理解できる。

準備学習	授業で習ったことの復習をしておく。
時間外学習	重要なキーワードについてまとめていく。練習問題の実施。
使用教材	救急救命士標準テキスト 改定第 10版
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	社会保障について	各社会保険の種類（人口資料）
2	〃	〃
3	社会保険について	理念と仕組み等（いのち）
4	〃	〃
5	社会福祉について	制度と運用（ヘレン・ケラー）
6	〃	〃
7	まとめ	これまで習ったことの再確認
8	終講義試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	専門基礎分野総括			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Brushing up of the Specialized Basic Field			総時間数	30	単位	2
学年	1	学期	通年	曜日	期間中随時	時限	期間中随時

担当教員	喜代平 要一 廣野二美	実務者経験	29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定 30年以上看護師としての臨床経験(R1.救急救命士)
------	----------------	-------	--

学習内容	専門基礎分野における授業及び模擬試験
到達目標	専門基礎分野について、復習と仕上げができ、総合的な判断力を習得する

準備学習 時間外学習	レポート課題等
使用教材	救急救命士 標準テキスト 10版 出版社(へるす出版) 配布プリント 演習問題
留意点 備考	

成績評価	終講時の筆記試験で60%以上正解すること
------	----------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	人体を構成する要素	人体の作りと役割を細胞、組織、臓器の概念から説明できる
2	神経系	神経系の成り立ちを、構造と情報伝達の観点から説明できる
3	感覚系	感覚器の種類と役割を説明できる
4	呼吸系	呼吸系の役割、駆動する仕組みを説明できる
5	循環系	循環系の構成と役割を説明できる
6	消化系	消化系の役割を消化、吸収、排泄の観点から説明できる
7	生殖系	男性生殖器、女性生殖器を解剖学的に説明できる
8	内分泌系	内分泌系の役割や概念を説明できる
9	血液・免疫系	血液の役割について説明できる
10	筋・骨格系	筋収縮の仕組みや骨と骨髄の役割が説明できる
11	皮膚系	皮膚の役割、構造、皮膚付属器の構造を説明できる
12	生命の維持	TCAサイクルとエネルギー産生について説明できる
13	疾患	疾患について概要を説明できる
14	炎症と感染	炎症と感染について説明できる
15	テスト	終講義試験

救急救命士学科

科目名	救急医療 I (概論)			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Emergency Medical Philosophy			総時間数	11	単 位	救急医療 I すべてで3
学 年	1	学 期	前期	曜 日	期間中随時	時 限	3・4

担当教員	太田 宗夫	実務者経験	医師、元千里救命救急センター所長 救急医療に40年以上携わる
------	-------	-------	-----------------------------------

学習内容	救急医学の本質・医学の発達、生命倫理と医の倫理などの基本的な考え方を学ぶ
到達目標	救急隊員としての社会的な責務について具体的に列挙できる。 日常的な業務について倫理的な意義を列挙できる。 業務の内容について傷病者・家族に分かりやすい説明が出来同意を得ることが出来る。

準備学習 時間外学習	講義で学んだことの復習及び重要キーワードについてまとめておく。
使用教材	救急救命士標準テキスト改定第10版、プリント資料
留意点 備考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	1. 医学と歴史	学問の本質と医学、自然科学と人文科学、自然科学的思考、医学概論という学問、医療と医学の歴史的背景、医学の体系化、現代の医学系列、医療と病気
2	2. 救急医療と救急医療体制	救急医療、救急医学とは、現代救急医療体制の概略、救急医療の対象、病院前救護とは、救急医療を医学的に保障するための構造、救命士業務の拡大と高度化、救命士の役割、救命士の責任など
3	3. 医の倫理	医療者の倫理と生命倫理、医療者倫理の歴史、II. 生命倫理、医学進歩と生命倫理、「生活の質」と「生命の質」、人の死に関する倫理論議とLiving will、病院倫理規定と倫理委員会、厳格になったInformed Consent、終末期医療、尊厳死と安楽死、尊厳を保持した死を実施する場面について
4	症例について	救急医療汎用専門英語、スライドを見ながら症例について学ぶ
5	まとめ	テスト範囲の総まとめ
6	終講義試験	
7		
8		
9		
10		

救急救命士学科

科目名	救急医療 I (I)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Emergency Medical Treatment			総時間数	12	単 位	救急医療 I すべてで3
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火	時 限	3・4

担当教員	吳 教東	実務者経験	日本救急医学会専門医・指導医として実務経験あり 評議員（前）：日本救急医学会・日本臨床救急医学会・日本脳神経外傷学会
------	------	-------	---

学習内容	救急医療の意義や救急医療体制、災害医療、メディカルコントロール、プレホスピタルケアとは何かを理解する。
到達目標	・現在の救急医療体制について説明できる。・災害医療特有の救急活動、行動規範について学ぶ。・最新の救急蘇生法を習得する。 ・病院前救護、メディカルコントロールの考え方につき学ぶ。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト、ほか。
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験
------	------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	救急医療体制	病院前医療、令和元年度版 救急・救助の現況
2	救急医療体制	救急医療システム（一般、周産期、精神科、小児救急医療体制）、救急医療情報（救急医療情報センター、救急安心センター）
3	災害医療体制	災害の概念、多数傷病者に対する対応、トリアージについて
4	災害医療体制	災害に関連する法的骨格は、特殊災害とは
5	病院前医療体制	救命の連鎖、救急蘇生法（ガイドライン2015）について、メディカルコントロールとは
6	試験	終講義試験
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	救急医療Ⅰ(Ⅱ)			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Emergency Medical Treatment			総時間数	11	単 位	救急医療Ⅰ すべてで3
学 年	1	学 期	前期	曜 日	火	時 限	1・2

担当教員	喜代平 要一 廣野 二美		29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定 30年以上看護師としての臨床経験(R1.救急救命士)
------	-----------------	--	--

学習内容	救急救命士として、消防機関における救急活動の基本及び流れを学習する。
到達目標	救急救命士に関連する法令、救急救命士の役割や責任を理解した上で、通信指令室の役割や救急活動の流れを理解し説明できる知識を身につける。また、救急救命士としての生涯教育についても理解し説明できる知識を身につける。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読と予習復習プリントの配布
使用教材	救急救命士 標準テキスト第10版(へるす出版) PPT資料
留意点 備 考	

成績評価	五肢択一若しくは択二の問題25問の筆記試験で評価する。
------	-----------------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	消防機関における救急活動の流れ	救急業務とは何か。その定義、基本原則及び対象等を理解する。
2	消防機関における救急活動の流れ	救急活動の基本(覚知から帰署後の書類作成まで)を理解しイメージする。
3	救急救命士の役割と責任	救急救命士の役割と責任を理解しイメージする。
4	救急救命士に関連する法規	救急救命士に関する法規、消防関係法規等を理解し、消防の職務をイメージする。
5	救急救命士の養成と生涯教育	救急救命士の養成と生涯教育について理解しイメージするとともに、救急救命士の将来について考える。
6	まとめと試験	
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	救急医療 I (医用電子工学)			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Medical Electronic Engineering			総時間数	11	単 位	救急医療 I すべてで3
学 年	1	学 期	後期	曜 日	水	時 限	1・2

担当教員	山口 睦人	実務者経験	関西医科大学附属病院にて中央手術室を中心に集中治療部門、カテ室、内視鏡、血液浄化へ臨床工学技士として臨床業務、また医療機器安全管理者として、特定機能病院に必要な安全管理業務に従事している。
------	-------	-------	--

学習内容	救急分野で使用されるME機器の基本原理・基本操作・安全性について学ぶ
到達目標	救急救命士にとって必要な医療機器の知識を習得できる。

準備学習 時間外学習	講義で学んだことの復習
使用教材	プリント資料
留意点 備考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	AED、生体監視装置	除細動器 (AED)、生体監視装置の使用法、事故事例紹介
2	AED、生体監視装置	//
3	人工呼吸器	人工呼吸に必要なモニタリング (Spo2、血液ガス)、呼吸器概論
4	人工呼吸器	//
5	総復習	総復習
6	試験	
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	観察・判断			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Observation・Decision			総時間数	20	単 位	1
学 年	1	学 期	後期	曜 日	火	時 限	3・4

担当教員	吳 教東	実務者経験	日本救急医学会専門医・指導医として実務経験あり 評議員（前）：日本救急医学会・日本臨床救急医学会・日本脳神経外傷学会
------	------	-------	---

学習内容	救急患者に対しての全身および局所の観察、緊急度重症度の判断とその対応を習得。
到達目標	適切な観察は、その後の適切な判断・処置には欠かせないものであり、それが重症度緊急度判断、病院選定、患者の予後に直接かかわってきます。適切な観察をするための方法とそれによって診られる徴候の意味が理解できることを目標とします。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト 及びプリント資料など
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験
------	------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	傷病者の観察	・観察の目的と意義、観察の方法・全身状態の観察
2	傷病者の観察	・バイタルサイン、外見、気道、呼吸、循環、神経の各所見とその意味について学習
3	傷病者の観察	・局所の観察
4	傷病者の観察	・皮膚、頭部・顔面・頸部、胸部、腹部、四肢の各所見とその意味について学習
5	傷病者の観察 重症度緊急度	・緊急度・重症度判断とその意義について学習
6	傷病者の観察 重症度緊急度	・緊急度・重症度判断とその意義について学習
7	傷病者の観察	・資器材による観察（・パルスオキシメーター ・カブノメーター ・聴診器 ・血圧計 ・心電図モニター ・体温計 ・血糖測定器）
8	傷病者の観察	・資器材による観察（・パルスオキシメーター ・カブノメーター ・聴診器 ・血圧計 ・心電図モニター ・体温計 ・血糖測定器）
9	まとめ	・まとめ（国家試験問題）
10	試験	・終講義試験
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	処置			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Treatment			総時間数	40	単位	2
学年	1	学期	後期	曜日	期間中随時	時限	3・4

担当教員	神納 光一郎 太田 育夫 中尾 隆美	実務者経験	【神納 光一郎】 医師、救急医療で28年間の実務経験 【太田育夫】 医師、救急医療で20年間の実務経験 【中尾隆美】 医師、救急医療で20年間の実務経験
------	--------------------------	-------	--

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①処置等の概念を理解する。②各処置について意義を理解する。 ③各処置について適応を的確に判断できる。④各処置を適切に実施できる。 ⑤各処置についてその効果を評価できる。 各種の処置について要点をとらえ、実践へのファーストステップとして理解する。 傷病者搬送の目的と意義を理解する。

準備学習 時間外学習	解剖・生理など既習の関連分野を復習する。 テキストの用語について調べておく。受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト改定第9版または10版
留意点 備考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	静脈路確保	目的と適応、資器材と準備
2	静脈路確保	手順と手技、評価、合併症、留意点
3	薬剤投与	心停止時のアドレナリン投与 アナフィラキシーに対するアドレナリン投与
4	薬剤投与	血糖測定とブドウ糖溶液投与 心肺停止時と心肺停止前の乳酸リンゲル液投与
5	その他の処置	体位管理、体温管理
6	外傷に対する処置	止血、創傷処置
7	外傷に対する処置	固定処置（骨折・脱臼）
8	外傷に対する処置	固定処置（頸椎保護・全脊柱固定・KED・フレイルチェスト）
9	在宅療養者に対する 処置	在宅酸素療法、在宅人工呼吸、気管切開、 植込み型ペースメーカー
10	在宅療養者に対する 処置	経管栄養、中心静脈栄養カテーテル、血液透析、 腹膜透析、尿道カテーテル、人工肛門
11	救急救命士が行う処置	処置の目的と意義、気道確保・手動的気道確保・気道異物除去・口腔内吸引・デバイスを用いた気道確保
12	救急救命士が行う処置	"
13	救急救命士が行う処置	搬送総論・搬送方法・搬送手順

14	救急救命士が行う処置	〃
15	救急救命士が行う処置	気管挿管、気管吸引、酸素投与の目的・方法・合併症・注意点など
16	救急救命士が行う処置	〃
17	救急救命士が行う処置	ヘリコプターへの搬入と搬出、事故車両からの救出方法
18	救急救命士が行う処置	〃
19	救急救命士が行う処置	人工呼吸、胸骨圧迫の目的・方法・合併症・注意点、徐細動など
20	救急救命士が行う処置	〃
21	まとめとテスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、筆記試験を実施する。

救急救命士学科

科目名	検査学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Clinical Examination			総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	期間中随時	時限	1・2

担当教員	朝日 佳代子 兒嶋 嵩 笹井 正思	実務者経験	<input type="checkbox"/>
------	-------------------------	-------	--------------------------

学習内容	検査学における、生理機能検査・血液検査・輸血検査について基礎的な内容を学ぶ。 救急医療における各臨床検査項目の目的、種類、検査データの評価方法を学ぶ。 単純エックス線撮影法、CT検査法、MRI検査法、血管造影法 (Digital Subtraction Angiography)、内視鏡、核医学検査といった各種画像診断法の原理と特徴、適応疾患につき、画像を供覧しながら解説する。
到達目標	生理機能・血液（止血）・輸血検査について基礎的な内容の理解。救急救命士国家試験に対応可能なレベルへの到達。 救急救命士標準テキストに記載されている各臨床検査項目の臨床的意義や検査データの診方を理解し、医療スタッフとの情報交換・救急医療に役立てる。 各種画像診断法の利点、欠点を説明できる。

準備学習 時間外学習	前期開講の「解剖学・生理学」の知識を前提に、各種画像ではどのように描出されるかを供覧する。
使用教材	救急救命士 標準テキスト 第10版 出版社（へるす出版）、スライドによる講義・配布プリント
留意点 備考	

成績評価	選択式問題で評価
------	----------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	生理機能	心電図検査、肺機能検査、脳波検査について説明。 主な症例における心電図波形、肺機能検査における主な臨床評価を理解する。
2	検査学1	臨床検査総論・一般検査【各臨床検査の目的・種類と検査結果の見方、および一般検査について】 臨床検査の目的や種類、検査データの診方が理解できる。一般検査の種類や臨床的意義が理解できる。
3	検査学2	生化学・血液ガス検査【生化学検査の臨床的意義・基準範囲・パニック値、および血液ガス検査について】 主な生化学検査項目の臨床的意義、基準範囲、パニック値が理解できる。また、血液ガス検査における酸素化や換気、酸塩基平衡の基本的な診方が理解できる。
4	検査学3	微生物検査【微生物検査項目の臨床的意義や検査の流れについて】 微生物検査の臨床的意義、および医療従事者となるうえで知っておくべき主な病原微生物が理解できる。
5	血液	形態を含めた血液検査、止血検査について説明。 主な血液疾患と血液検査項目との関連について理解する。
6	輸血	輸血検査について説明。 血液型・輸血検査の判定方法、輸血副作用について理解する。
7	画像診断学	内容：単純X線撮影、CT、MRI、超音波、血管造影、内視鏡、核医学検査につき概説する 目標：各種画像検査法の特徴（利点、欠点）を説明できる。
8	試験	終講義試験

救急救命士学科

科目名	放射線医学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Radiology			総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	月	時限	1・2

担当教員	笹井 正思	実務者経験	1990年7月より大阪大学歯学部附属病院歯科放射線科（2007年より放射線科）に勤務、放射線診療に従事し現在に至る。
------	-------	-------	--

学習内容	臨床で用いられる電離放射線の基礎的事項と生物への影響、放射線防護等の一般的な放射線学的知識と、それを基として放射線障害要救護者対応・緊急被曝医療を学ぶ
到達目標	放射線の一般的知識を基に、放射線事故時の区域管理・スクリーニング・除染処置等の対応と緊急被曝医療体制の概要を理解する

準備学習 時間外学習	放射線物理学に関しては原子の構造・電離作用等の物理学的知識を、放射線生物学に関しては生体中でのDNAの役割等の生物学的知識を、放射線影響学に関しては組織の構造等の解剖学知識を、各々要する。前期開講の当該科目関連事項の復習が
使用教材	救命救急士テキスト（ヘルス出版） 配布プリント
留意点 備考	環境省が公開している「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料」の閲覧を推奨いたします

成績評価	期末試験で評価する
------	-----------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	放射線医学概説 放射線の利用	内容：暮らしや産業のなかでの放射線利用を解説する。目標：放射線利用法から放射線の各種の性質を説明できる。放射線施設は多様で身近に存在し、救急活動現場となりうることを理解する。
2	放射線の基礎知識	内容：放射性壊変と、放射線の種類について学ぶため、原子模型や崩壊形式について解説する。 目標：放射線の種類、分類とその性質につき説明できる。
3	放射線物理学	内容：放射線の一般的性質について解説する。目標：放射線、放射能、放射性同位元素の意味を説明できる。放射線に関わる単位（ベクレル・グレイ・シーベルト）について説明できる。
4	放射線生物学	内容：放射線の生物学的影響の発現機序と効果、放射線感受性について解説する。 目標：確率的影響と確定的影響（組織反応）の差異を説明できる。
5	放射線被曝と防護	内容：ICRPによる放射線防護の基本的な考え方を解説する。目標：対象者による被曝の区分（職業被曝・公衆被曝、医療被曝）、各種被曝様式（内部被曝と外部被曝）について説明できる。
6	放射線事故時の対応	内容：一連の放射線事故対応尾（線量測定、汚染拡大防止、区域管理）について解説する。 目標：時間、距離、遮蔽等の外部被曝への防護法と、区域管理の要点を説明できる。
7	緊急被曝医療体制 まとめ	内容：被曝事故傷病者に関わる一般的事項と緊急被曝医療体制について解説する。 目標：重度の被曝に関連して傷病者に現れうる症状等について、説明できる。
8	試験	後期試験
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	救急医学概論総括			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Brushing up of Emergency Medicine of Traumas			総時間数	15	単位	1
学年	1	学期	後期	曜日	期間中随時	時限	期間中随時

担当教員	喜代平 要一 廣野二美	実務者経験	29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定 30年以上看護師としての臨床経験(R1.救急救命士)
------	----------------	-------	--

学習内容	1 救急医学概論において救急救命士に関連する法令をより深く学ぶ。 2 全身及び局所の観察についてより深く学ぶ。 3 資器材の取扱い及び処置方法についてより深く学ぶ。
到達目標	1 救急救命士法及び関連する法令の重要部分を要約できる。 2 本科目において学んだことを活動に応用する。

準備学習 時間外学習	標準テキスト及び作成したハンドブックの閲読
使用教材	改定第10版 救急救命士標準テキスト 出版社(へるす出版)
留意点 備考	

成績評価	五肢択一もしくは択二の筆記試験で評価する。
------	-----------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	救急医療体制	救急搬送の現状についての概要を学ぶ
2	消防機関における救急活動の流れ	救急活動記録と救急活動処置録の法的根拠、目的、記載内容、注意事項を学ぶ
3	関連する法令	消防法・医療法・医師法について学ぶ
4	局所の観察	身体の各部位ごとに観察すべき項目と観察方法を学ぶ。
5	資器材の取扱い	資器材の取扱い方法について学ぶ。
6	処置方法	処置方法について学ぶ。
7	まとめ	
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	シミュレーション実習 I			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Simulation Training			総時間数	270	単位	6
学年	1	学期	通年	曜日	期間中随時	時限	1・2・3・4

担当教員	喜代平 要一 廣野二美	実務者経験	29年の消防経験(H13. 救急救命士)挿管・薬剤認定 30年以上看護師としての臨床経験(R1. 救急救命士)
------	----------------	-------	--

学習内容	救急救命士に必要な基礎を学ぶ。
到達目標	救急救命士に必要な基礎を学び、想定訓練に繋がれるようになる。

準備学習 時間外学習	実技を各自で行う。
使用教材	救急救命士 標準テキスト 第10版 出版社(へるす出版)、配布プリント
留意点 備考	

成績評価	BLS、救急救命処置 I は試験を行う。
------	----------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	規律訓練	横隊編成・停止間訓練
2	規律訓練	横隊編成・停止間訓練
3	規律訓練	横隊編成・停止間訓練
4	規律訓練	横隊編成・停止間訓練
5	被覆固定	三角巾・シーネ
6	被覆固定	三角巾・シーネ
7	規律訓練	各個訓練・行進間
8	規律訓練	各個訓練・行進間
9	ロープ	本結び・もやい結び・巻き結び 座席結び・コイル巻きもやい結び
10	ロープ	本結び・もやい結び・巻き結び 座席結び・コイル巻きもやい結び
11	BLS	BLS概要説明
12	BLS	BLS概要説明
13	BLS	人工呼吸・胸骨圧迫
14	BLS	人工呼吸・胸骨圧迫
15	BLS	心肺蘇生法(AEDなし)
16	BLS	心肺蘇生法(AEDなし)

17	規律訓練	各個訓練・行進間
18	規律訓練	各個訓練・行進間
19	止血	H29あり方検討会報告書による止血講習(面談)
20	止血	H29あり方検討会報告書による止血講習(面談)
21	BLS	小児・乳児・異物除去(面談)
22	BLS	小児・乳児・異物除去(面談)
23	復習	BLS・被覆・ロープ
24	復習	BLS・被覆・ロープ
25	被覆固定	三角巾・シーネ
26	被覆固定	三角巾・シーネ
27	リバーレスキュー	リバーレスキュー実技
28	リバーレスキュー	リバーレスキュー実技
29	リバーレスキュー	リバーレスキュー実技
30	リバーレスキュー	リバーレスキュー実技
31	活動流れ	初期評価の概要 初期評価トレーニング
32	活動流れ	初期評価の概要 初期評価トレーニング
33	活動流れ	初期評価の概要 意識
34	活動流れ	初期評価の概要 意識
35	活動流れ	バイタルサイン
36	活動流れ	バイタルサイン
37	活動流れ	バイタルサイン
38	活動流れ	バイタルサイン
39	BLS	ポケットマスク
40	BLS	ポケットマスク
41	活動流れ	傷病者搬送 徒手・布・イーバック・メイン
42	活動流れ	傷病者搬送 徒手・布・イーバック・メイン
43	復習	査閲訓練 (ロープ・救急活動・BLS)
44	復習	査閲訓練 (ロープ・救急活動・BLS)
45	ロープ	本結び・もやい結び・巻き結び 座席結び・コイル巻きもやい結び
46	ロープ	本結び・もやい結び・巻き結び 座席結び・コイル巻きもやい結び

47	活動流れ	出動訓練5症例
48	活動流れ	出動訓練5症例
49	BLS	人工呼吸・胸骨圧迫
50	BLS	人工呼吸・胸骨圧迫
51	酸素投与	酸素投与・ポンベの確認方法
52	酸素投与	酸素投与・ポンベの確認方法
53	呼吸音	聴診方法、異常呼吸音について
54	呼吸音	聴診方法、異常呼吸音について
55	傷病者搬送	体位・車内収容要領・各種搬送器具
56	傷病者搬送	体位・車内収容要領・各種搬送器具
57	処置	気道確保・BVMによる人工呼吸
58	処置	気道確保・BVMによる人工呼吸
59	処置	気道確保・BVMによる人工呼吸
60	処置	気道確保・BVMによる人工呼吸
61	処置	気道確保・BVMによる人工呼吸
62	処置	気道確保・BVMによる人工呼吸
63	処置	エアウェイ含めた気道確保 BVMによる人工呼吸
64	処置	エアウェイ含めた気道確保 BVMによる人工呼吸
65	BLS	救命講習の概要説明 普通救命講習 I
66	BLS	救命講習の概要説明 普通救命講習 I
67	活動流れ	出動訓練5症例
68	活動流れ	出動訓練5症例
69	BLS	普通救命講習 I
70	BLS	普通救命講習 I
71	BLS	BLSテスト
72	BLS	BLSテスト
73	異物除去	異物除去
74	異物除去	異物除去
75	異物除去	異物除去
76	異物除去	異物除去

77	心電図	心電図
78	心電図	心電図
79	心電図	除細動／吸引器取扱い
80	心電図	除細動／吸引器取扱い
81	自動心マ	自動心マ取扱い
82	自動心マ	自動心マ取扱い
83	復習	復習①
84	復習	復習①
85	復習	復習①
86	復習	復習①
87	自動心マ	自動心マ取扱い
88	自動心マ	自動心マ取扱い
89	復習	初期評価・トリアージ
90	復習	初期評価・トリアージ
91	観察	情報収集・ファーストコール 観察
92	観察	情報収集・ファーストコール 観察
93	観察	観察(腹痛／吐血・喀血)
94	観察	観察(腹痛／吐血・喀血)
95	観察	観察(下痢／下血・不正性器出血)
96	観察	観察(下痢／下血・不正性器出血)
97	復習	初期評価・トリアージ
98	復習	初期評価・トリアージ
99	観察	腰痛・血尿・側腹部痛
100	観察	腰痛・血尿・側腹部痛
101	観察	背部痛・胸痛
102	観察	背部痛・胸痛
103	観察	めまい・ふらつき・しびれ・麻痺
104	観察	めまい・ふらつき・しびれ・麻痺
105	観察	背部痛・胸痛
106	観察	背部痛・胸痛

107	観察	痙攣・頭痛
108	観察	痙攣・頭痛
109	観察	呼吸困難・動悸
110	観察	呼吸困難・動悸
111	観察	JPTEC座学
112	観察	JPTEC座学
113	観察	全身固定要領
114	観察	全身固定要領
115	観察	外傷症例
116	観察	外傷症例
117	観察	緊急処置
118	観察	緊急処置
119	観察	緊急処置
120	観察	緊急処置
121	観察	集団災害要領
122	観察	集団災害要領
123	観察	献血概要・外傷パターン・各種観察
124	観察	献血概要・外傷パターン・各種観察
125	観察	外傷症例
126	観察	外傷症例
127	観察	接遇・症例
128	観察	接遇・症例
129	観察	接遇・症例
130	観察	接遇・症例
131	観察	救急出動訓練(症例付与)
132	観察	救急出動訓練(症例付与)
133	観察	外傷処置訓練
134	観察	救急救命処置 I テスト
135	まとめ	1年総まとめ

救急救命士学科

科目名	総合救急医療 I			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine			総時間数	15	単 位	1
学 年	1	学 期	通年	曜 日	期間中随時	時 限	1・2・3・4

担当教員	喜代平 要一 廣野二美	実務者経験	29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定 30年以上看護師としての臨床経験(R1.救急救命士)
------	----------------	-------	--

学習内容	これまでに学んだことを模擬試験で出題する。
到達目標	国家試験に合格できる知識を身につける。

準備学習 時間外学習	これまでに学んだことを自己学習する。
使用教材	
留意点 備 考	

成績評価	
------	--

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	模擬試験	第1回模擬試験
2	模擬試験	第2回模擬試験
3	模擬試験	第3回模擬試験
4	模擬試験	第3回模擬試験
5	模擬試験	第4回模擬試験
6	模擬試験	第4回模擬試験
7	模擬試験	第5回模擬試験
8	模擬試験	第5回模擬試験
9	模擬試験	第6回模擬試験
10	模擬試験	第6回模擬試験
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	接遇と安全管理			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Reception & Service			総時間数	15	単位	1
学年	2	学期	後期	曜日	金	時限	3・4

担当教員	小西 ゆかり	実務者経験	看護師として22年の臨床経験(救急認定看護師)
------	--------	-------	-------------------------

学習内容	傷病者、家族に対する接遇要領、安全管理について、ストレスマネジメントについて、テキストを通して学習する。
到達目標	救急救命士として傷病者やその家族と接する時の接遇とはどのようなものを理解できる 救急救命士自身、また傷病者の安全管理が行えるよう理解することができる 救急救命士自身のストレスマネジメントとはどういうことか理解できる

準備学習 時間外学習	講義内容の復習を行う。
使用教材	救急救命士標準テキスト改定第10版
留意点 備考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> ■他者に情報を適切に伝達するということを意識した自己紹介(声の大きさや態度、話し方を意識する)
2	救急救命士と傷病者との関係	<ul style="list-style-type: none"> ■傷病者とのコミュニケーションの技法と初期対応について ■安心につながる対応、精神的援助、死者その家族とのかかわり ■インフォームドコンセントと生前意思表示について
3	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ■安全管理とリスクマネジメント ■傷病者の安全管理(転倒・転落防止、チューブ・カテーテル類管理、誤嚥防止、感染予防) ■救急隊員の安全管理(業務上の事故、感染防御)
4	フィジカルアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ■フィジカルアセスメント(呼吸・循環・意識・腹部)の理解
5	ストレスに対するマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ■救急活動でのストレス(ストレスの意味、対応、PTSDについて) ■救急活動でのストレス対応(PTSDに対するケア、環境整備)
6	トリアージ学習	<ul style="list-style-type: none"> ■トリアージの基礎の理解 ■トリアージペーパー演習
7	まとめ	全体を通しての復習(重要事項の再確認)
8	終講義試験	
9		

救急救命士学科

科目名	救急医学概論総括			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Brushing up of Emergency Medicine of Traumas			総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	期間中随時	時 限	期間中随時

担当教員	大崎 聖敏 矢野 博之 豊田 日出美	実務者経験	10年の消防経験(H19. 救急救命士) 挿管・薬剤認定 3年の消防経験(H10. 救急救命士) その後、看護師として12年の臨床経験(H20. 看護師) 18年 看護師としての臨床経験(H6. 救急救命士)
------	--------------------------	-------	--

学習内容	1 救急医学概論において救急救命士に関連する法令をより深く学ぶ。 2 全身及び局所の観察についてより深く学ぶ。 3 資器材の取扱い及び処置方法についてより深く学ぶ。
------	--

到達目標	1 救急救命士法及び関連する法令の重要部分を要約できる。 2 本科目において学んだことを活動に応用する。
------	---

準備学習 時間外学習	標準テキスト及び作成したハンドブックの閲読
使用教材	改定第10版 救急救命士標準テキスト 出版社（へるす出版）
留意点 備 考	

成績評価	五肢択一もしくは択二の筆記試験で評価する。
------	-----------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	救急救命士法	救急救命士法について学ぶ。
2	関連する法令	消防法・医療法・医師法について学ぶ。
3	全身状態の観察	外見観察・初期評価・全身観察について学ぶ。
4	局所の観察	身体の各部位ごとに観察すべき項目と観察方法を学ぶ。
5	資器材の取扱い	資器材の取扱い方法について学ぶ。
6	処置方法	処置方法について学ぶ。
7	まとめ	
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	心肺停止			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Cardio-Pulmonary Arrest			総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	前期	曜日	火土	時限	3・4

担当教員	呉 教東	実務者経験	日本救急医学会専門医・指導医として実務経験あり 評議員（前）：日本救急医学会・日本臨床救急医学会・日本脳神経外傷学会
------	------	-------	---

学習内容	心肺停止の判断や、病態生理と救急処置法などを中心に理解できる。
到達目標	心肺停止の概念、病態について理解し、救急蘇生法の最新のガイドラインを学習することで、救急活動におけるプロトコルを理解、習得する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト、ほか。
留意点 備考	

成績評価	筆記試験
------	------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	心肺停止総論	・定義、概念、疫学についての最新資料 ・救急活動基準に記載されている心肺停止に関する定義 ・早期、晚期死体現象（死後変化） ・ウツタイン様式について説明。
2	心肺停止に至る病態と原因	・不整脈、低心拍出量 ・心臓振盪について
3	心肺停止に至る病態と原因	・呼吸不全 ・乳幼児突然死症候群に関する知見 ・脳障害、急性中毒、電解質異常、電撃症など
4	心肺停止に至る病態と原因	・生体酸素状況 ・主な原因疾患について（5H5T） ・心電図分類
5	心肺蘇生中の病態	・胸骨圧迫による循環発生の機序 ・心肺蘇生中の冠循環と脳循環
6	心肺蘇生中の病態	・心肺蘇生中の呼吸循環（呼気終末二酸化炭素分圧の重要性） ・胸骨圧迫の効果に影響する因子（血管収縮薬、陽圧換気など）
7	心拍再開後の病態	・虚血 ・再灌流障害 ・循環、神経機能の回復過程
8	心拍再開後の病態	・心拍再開後の経過に影響する因子（酸素、二酸化炭素、体温、血糖、痙攣など） ・ガイドライン2015記載内容
9	救急蘇生法	・蘇生ガイドラインの歴史 ・蘇生ガイドラインの成り立ち ・AHA、ERC、JRC
10	蘇生ガイドライン	・一次救命処置（市民用） ・ガイドライン2015
11	救急隊員による一次救命処置	・一次救命処置（医療用） ・ガイドライン2015 ・市民による一次救命処置についても講義
12	心肺蘇生に関する病院前救護のプロトコル	・病院前救護の心肺蘇生に関するプロトコル ・心停止アルゴリズム ・心肺機能停止対応業務プロトコル ・包括的指示下除細動プロトコル ・器具を用いた気道確保プロトコル ・薬剤投与プロトコル ・VF/無脈性VTへの対応 ・無脈性電気活動/心静止への対応
13	医療機関での治療	・二次救命処置 ・特殊な二次救命処置（PCPS、開胸式心マッサージ） ・心拍再開後の集中治療
14	小児の救急蘇生法・乳児の救急蘇生法	・ガイドライン2015の内容も合わせて
15	まとめ	・最近の国家試験問題ほか

救急救命士学科

科目名	ショック・循環不全			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Shock・Circulatory Failure			総時間数	15	単位	1
学年	2	学期	前期	曜日	期間中随時	時限	3・4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する
------	--------	-------	------------------

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	心不全・ショックについて、 ①病態生理を理解する。②症状を観察して判断できる。③応急処置と搬送を適切にできる。 ④必要な治療を想定して医療機関を選定し、適確に報告できる。

準備学習 時間外学習	循環系の解剖・生理など既習の分野を復習する。テキストの用語の読み方や意味を調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト 改定第 10版
留意点 備考	

成績評価	筆記試験
------	------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	心不全	総論 病態生理
2	心不全	症候、種類、慢性心不全の急性増悪、現場活動
3	ショック	総論
4	ショック	循環血液量減少性ショック（1）
5	ショック	循環血液量減少性ショック（2）
6	ショック	心原性ショック 心外閉塞・拘束性ショック
7	ショック	血液分布異常性ショック
8	まとめ・テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	意識障害			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Conscious Disturbance			総時間数	15	単位	1
学年	2	学期	前期	曜日	期間中随時	時限	3・4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する
------	--------	-------	------------------

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	重症脳障害・意識障害について、 ①病態生理を理解する。②症状を観察して判断できる。③応急処置と搬送を適切にできる。 ④必要な治療を想定して医療機関を選定し、適確に報告できる。

準備学習 時間外学習	中枢神経系の解剖・生理など既習の関連分野を復習する。テキストの用語について調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト 改定第 10版
留意点 備考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	重症脳障害	総論・発症機序 一次性脳病変と二次性脳病変
2	重症脳障害	頭蓋内圧亢進
3	重症脳障害	脳ヘルニア
4	重症脳障害	特殊な意識障害
5	意識障害	意識障害の原因
6	意識障害	随伴症候
7	意識障害	意識障害の判断と現場活動
8	まとめ・テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	救急症候学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Emergency Symptomatology			総時間数	45	単位	3
学年	2	学期	前期	曜日	火土	時限	3-4

担当教員	呉 教東	実務者経験	日本救急医学会専門医・指導医 評議員（前）：日本救急医学会・日本臨床救急医学会・日本脳神経外傷学会
------	------	-------	--

学習内容	各種救急疾患でみられる症候を学習
到達目標	各種救急症候について、その機序・病態生理を理解し、観察法・評価法について理解し、適切な処置につなげられるようにする。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト 改定第 10版
留意点 備考	

成績評価	筆記試験
------	------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	呼吸不全・呼吸困難	・呼吸不全の概念と病態生理 ・分類
2	呼吸不全・呼吸困難	・原因疾患と重症度緊急度の判断 ・処置
3	頭痛・痙攣	・発症機序と分類 ・原因疾患と随伴症候
4	頭痛・痙攣	・重症度緊急度の判断 ・処置
5	運動麻痺	・病態生理と分類 ・原因疾患と随伴症候
6	運動麻痺	・重症度緊急度の判断 ・現場活動
7	めまい	・発症機序と分類 ・原因疾患と随伴症候
8	めまい	・重症度緊急度の判断 ・現場活動
9	喀血	・定義と分類 ・原因疾患と随伴症候
10	喀血	・重症度緊急度の判断 ・現場活動
11	吐血	・定義と概念 ・原因疾患と随伴症候
12	吐血	・重症度緊急度の判断 ・現場活動
13	失神	・定義と概念 ・原因疾患と随伴症候
14	失神	・重症度緊急度の判断 ・現場活動
15	胸痛・動悸	・定義と発症機序 ・原因疾患と随伴症候

16	胸痛・動悸	・重症度緊急度の判断　・現場活動
17	腹痛	・発症機序　・原因疾患と随伴症候
18	腹痛	・重症度緊急度の判断　・現場活動
19	腰痛・背部痛	・定義と概念　・原因疾患と随伴症候
20	腰痛・背部痛	・重症度緊急度の判断　・現場活動
21	体温上昇	・定義と発症機序　・原因疾患と随伴症候
22	体温上昇	・重症度緊急度の判断　・現場活動
23	まとめ	まとめと試験

救急救命士学科

科目名	救急症候・病態生理学総括		必修/選択	必修	授業形式	講義	
【英】	Brushing up of Emergency Symptomatology & Pathophysiology		総時間数	30	単位	2	
学年	2	学期	前期	曜日	期間中随時	時限	1・2

担当教員	大崎 聖敏 矢野 博之 豊田 日出美	実務者経験	10年の消防経験(H19. 救急救命士) 挿管・薬剤認定 3年の消防経験(H10. 救急救命士) その後、看護師として12年の臨床経験(H20. 看護師) 18年 看護師としての臨床経験(H6. 救急救命士)
------	--------------------------	-------	--

学習内容	1 救急疾患に関係の深い病態における機能的変化を捉えるとともに、傷病者本人が自覚する症状と他者の観察による徴候を学習する。 2 疾病傷病者に対する理論的で確実な対応を可能とするよう学習する。
到達目標	1 救急病態生理学のうち標準テキストに記載されている5項目について各項目の知識を身につける。 2 救急症候学のうち標準テキストに記載されている14項目について各項目知識を身につける。 3 救急症候・病態生理学で学んだ知識を活動時に応用する。

準備学習 時間外学習	標準テキスト及びハンドブックの閲読
使用教材	改定第10版 救急救命士標準テキスト 出版社（へるす出版）
留意点 備考	救急救命士標準テキストの範囲を復習。

成績評価	五肢択一もしくは択二の筆記試験で評価する。
------	-----------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	救急病態生理学	【呼吸不全総括】
2	救急病態生理学	【心不全総括】
3	救急病態生理学	【ショック総括】
4	救急病態生理学	【重症脳障害総括】
5	救急病態生理学	【心肺停止総括】
6	救急症候学	【意識障害、頭痛総括】
7	救急症候学	【痙攣、運動麻痺総括】
8	救急症候学	【めまい、呼吸困難総括】
9	救急症候学	【喀血、失神総括】
10	救急症候学	【胸痛、動悸総括】
11	救急症候学	【腹痛、吐血・下血総括】
12	救急症候学	【腰痛・背部痛、体温上昇総括】
13	まとめ	全体を捉え、重要部分を再度説明する。
14	まとめ	全体を捉え、重要部分を再度説明する。
15	試験	

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学 I (神経系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Neural Diseases			総時間数	17	単位	1
学年	2	学期	前期	曜日	期間中随時	時限	期間中随時

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する
------	--------	-------	------------------

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①神経系の構造と機能を理解する。②神経系の病態生理を理解する。 ③関連する症候を観察して評価できる。④おもな神経系疾患について病態を理解する。 ⑤おもな神経系疾患について観察と判断をし、応急処置と搬送ができる。

準備学習 時間外学習	神経系の解剖・生理など既習の関連分野を復習する。テキストの用語について調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版)
留意点 備考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	総論 (1)	中枢神経系、末梢神経系、自律神経系、脳の血管疫学と救急医療における意義
2	総論 (2)	神経系疾患の主要症候 基本的対応
3	脳血管障害 (1)	脳血管障害の概要 くも膜下出血
4	脳血管障害 (2)	脳出血
5	脳血管障害 (3)	脳梗塞、一過性脳虚血発作 脳動静脈奇形、もやもや病
6	中枢神経系の感染症	髄膜炎、脳炎、脳膿瘍
7	その他の中枢神経疾患	てんかん、脳腫瘍
8	その他の中枢神経疾患 末梢神経疾患	変性疾患、脱髄疾患 ギランバレー症候群、糖尿病性ニューロパシー
9	まとめと補足 テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学 I (感覚器口腔系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Sensory & Oral Diseases			総時間数	13	単位	神経系と合わせて1
学年	2	学期	後期	曜日	期間中随時	時限	3.4

担当教員	吉岡茉依子 三本 珠未 横田 祐介 橋本 典子	実務者経験	吉岡茉依子:眼科診療及び治療に6年携わる 三本 珠未:眼科診療及び治療に5年携わる 横田 祐介:口腔外科診療及び治療に12年携わる 橋本 典子:耳鼻咽喉科診療及び治療に27年携わる
------	----------------------------------	-------	---

学習内容	感覚器口腔分野の解剖を理解したうえで主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを学ぶ
到達目標	救急救命士に必要な感覚器系疾患の理解、また主要な症候、基本的な対応について理解して説明できる。

準備学習 時間外学習	毎回の講義後、復習をしておく
使用教材	救急救命士標準テキスト改定第10版
留意点 備考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	眼の主要症候と救急疾患	眼科領域の解剖 視覚障害と各眼科的救急疾患の理解を深める
2	”	急性緑内障発作、網膜中心動脈閉塞症、網膜剥離、結膜炎・角膜炎、白内障、視神経炎
3	耳鼻咽喉科	聴覚器の解剖
4	”	末梢性めまい、炎症(中耳炎、鼓膜穿孔) 鼻の疾患(鼻出血、急性副鼻腔炎)
5	顎・口腔の解剖および、 代表疾患	歯・口腔系の構造を理解した上で、疾患について理解する。 救急現場における対処法について理解する。
6	口腔外科学および、口腔 外傷対処法	”
7	試験	
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学Ⅱ(呼吸器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Respiratory Diseases			総時間数	16	単位	1
学年	2	学期	前期	曜日	期間中随時	時限	期間中随時

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する
------	--------	-------	------------------

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①呼吸器系の構造と機能を理解する。②呼吸障害について観察して評価できる。 ③関連する症候を観察して評価できる。④おもな呼吸器系疾患について病態を理解する。 ⑤おもな呼吸器系疾患について観察と判断をし、応急処置と搬送ができる。

準備学習 時間外学習	呼吸系の解剖・生理など既習の関連分野を復習する。テキストの用語について調べておく。受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)
留意点 備考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	疾患の理解に必要な基礎知識	呼吸系の構造と機能、疾病の背景因子 換気、ガス交換、血液による酸素運搬
2	呼吸についての病態生理	酸素欠乏、換気の障害(気道と呼吸運動)、ガス交換の障害(肺胞と肺間質)、 酸素運搬の障害(ヘモグロビンと血流)、酸素利用の障害
3	呼吸器系疾患の観察と判断	疫学、観察、症状、重症度と緊急度、 応急処置と搬送、医療機関の選定
4	上気道の疾患	病態、症状、観察のポイント、予後、 観察と判断、処置、搬送
5	下気道と肺胞の疾患	病態、症状、観察のポイント、予後、 観察と判断、処置、搬送
6	感染症	病態、症状、観察のポイント、予後、 観察と判断、処置、搬送
7	胸膜疾患 その他の呼吸器疾患	病態、症状、観察のポイント、予後、 観察と判断、処置、搬送
8	まとめとテスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学Ⅱ(循環器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Circulatory Diseases			総時間数	16	単位	1
学年	2	学期	前期	曜日	期間中随時	時限	期間中随時

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する
------	--------	-------	------------------

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①循環系の構造と機能を理解する。②循環系の病態生理を理解する。 ③関連する症候を観察して評価できる。④おこな循環系疾患について病態を理解する。 ⑤おこな循環系疾患について観察と判断をし、応急処置と搬送ができる。

準備学習 時間外学習	解剖・生理など既習の関連分野を復習する。 テキストの用語について調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)
留意点 備考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	総論	循環系の構造、心周期、ポンプ機能 疫学、主要症候、基本的対応
2	動脈硬化 心不全 高血圧	動脈硬化の概念と病態 心不全の病態生理と症候 高血圧症、高血圧緊急症
3	血管疾患	急性大動脈解離、大動脈瘤、 急性四肢動脈閉塞症、閉塞性動脈硬化症 深部静脈血栓症
4	虚血性心疾患	概念、急性冠症候群、急性心筋梗塞、 不安定狭心症、安定狭心症
5	心筋疾患 心膜疾患 その他の心疾患	心筋症、心筋炎 心タンポナーデ、急性心膜炎 心臓弁膜症、感染性心内膜炎、先天性心疾患
6	心電図の解説	心電図の基礎 頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、その他の不整脈 心筋の虚血性変化、その他の心電図異常
7	不整脈	不整脈とは、心臓突然死、心室細動、心室頻拍、 心房細動、洞頻脈、房室ブロック、 QT延長症候群、WPW症候群
8	まとめとテスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。
9		
10		
11		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学Ⅲ(消化器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Digestive Diseases			総時間数	16	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	金	時 限	3・4

担当教員	天野 美緒	実務者経験	2009年度より医師として従事し、2011年度より消化器内科の勤務医として診療にあたっている。
------	-------	-------	---

学習内容	消化器疾患の基礎および多彩な臓器の多彩な病態を学んで理解する。
到達目標	消化器疾患の基礎を学び、ある程度の疾患の鑑別および重症度の判断ができるようになり、臨床の場に応用できるレベルになる。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読
使用教材	救急救命士 標準テキスト 第10版 出版社(へるす出版)、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	試験にて評価する
------	----------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	総論	消化器疾患について
2	総論	症候について
3	消化器系疾患	上部消化管疾患について
4	消化器系疾患	下部消化管疾患について
5	消化器系疾患	肝疾患について
6	消化器系疾患	胆膵疾患について
7	まとめ	まとめ、復習
8	試験	試験
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学Ⅲ(泌尿生殖器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Uro-Genital Diseases			総時間数	9	単 位	消化器疾患と合わせて!
学 年	2	学 期	後期	曜 日	金	時 限	3・4

担当教員	辻畑 正雄	実務者経験	医師、大学病院、市中病院等で30年泌尿器科で診療・治療に携わる
------	-------	-------	---------------------------------

学習内容	
到達目標	泌尿器・男性生殖器領域の解剖・生理について理解し、同領域における救急疾患を中心に学習する

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士 標準テキスト 第10版 出版社(へるす出版) スライドなど
留意点 備 考	

成績評価	試験を行う
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	泌尿器、生殖器の解剖生理	泌尿器・男性生殖器の解剖および生理
2	泌尿器疾患	腎不全および尿路結石症について
3	泌尿器生殖器疾患	前立腺肥大症、尿路感染症、尿路性器癌
4	泌尿器の外傷	救急外傷について
5	試験	試験
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学Ⅳ(内分泌代謝栄養系疾患)		必修/選択	必修	授業形式	講義	
【英】	Humoral, Metabolic & Nutritious Diseases		総時間数	16	単位	1	
学年	2	学期	前期	曜日	期間中随時	時限	3・4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する
------	--------	-------	------------------

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①内分泌系の構造と機能を理解する。②内分泌・代謝・栄養系の病態生理を理解する。 ③関連する症候を観察して評価できる。 ④おもな内分泌・代謝・栄養系疾患について病態を理解する。 ⑤おもな内分泌・代謝・栄養系疾患について観察と判断をし、応急処置と搬送ができる。

準備学習 時間外学習	解剖・生理など既習の関連分野を復習する。 テキストの用語について調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)
留意点 備考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	内分泌系疾患	内分泌系の解剖生理学 代謝・内分泌・栄養系疾患の総論
2	内分泌系疾患	内分泌系疾患
3	栄養障害	栄養、栄養障害、低栄養・飢餓、肥満・栄養過多、 ビタミン欠乏、ビタミン過剰
4	糖尿病	病態、分類、合併症、治療
5	糖尿病の関連病態	低血糖 糖尿病ケトアシドーシス 高温高圧高血糖症候群
6	代謝障害	糖質代謝の障害、脂質代謝の異常、 蛋白質代謝の異常
7	水・電解質の異常 酸塩基平衡の異常	体液の異常、脱水、水分過剰 電解質の異常 酸塩基平衡の異常
8	まとめ と テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学Ⅳ(血液免疫系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Blood & Immune Diseases			総時間数	16	単位	内分泌代謝栄養系と合わせて1
学年	2	学期	後期	曜日	月	時限	3・4

担当教員	谷村 博久	実務者経験	1986年から大阪大学医学部第一内科勤務、1990年から大阪警察病院内科勤務、2003年から大阪回生病院内科勤務、現在、副院長、内科統括部長、消化器センター長兼務。
------	-------	-------	--

学習内容	血液・体液の解剖と生理を理解した上で血液免疫疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを学ぶ。
到達目標	血液免疫疾患の主な症候をあげ、それぞれについて概要を説明できる様になる。

準備学習 時間外学習	事前にテキストの閲読、講義ごとの復習が必要
使用教材	救急救命士標準テキスト改定第10版
留意点 備考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	血液免疫総論	救急医療における意義、血液・免疫系疾患の主要症候
2	〃	1) 出血傾向/2) リンパ節腫脹/3) 肝脾腫、緊急度・重症度の判断、応急処置と搬送、医療機関選定
3	血液各論	貧血、血小板減少症、白血病、血友病、紫斑病、播種性血管内凝固症候群(DIC)
4	〃	顆粒球減少症、止血に影響を与える薬剤(経口抗凝固薬/2) 抗血小板薬)
5	免疫各論	1. アナフィラキシー、1) 定義・概念/2) 疫学/3) 原因/4) 病態/5) 症候/6) 現場活動/7) 医療機関での診療/8) 予後
6	〃	2. アレルギー性疾患、1) 薬物アレルギー/2) 食物アレルギー/3) 血清病 3. 自己免疫疾患、4. 膠原病
7	まとめ、演習	重要事項の再確認
8	テスト	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学Ⅴ(筋骨格・皮膚系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Musculo-Skeletal Diseases・Skin Diseases			総時間数	15	単位	1
学年	2	学期	前期	曜日	水	時限	4

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得、2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	--

学習内容	筋・骨格系の解剖・生理と筋骨格系疾患の主な症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学習する。 皮膚の構造と機能と皮膚疾患の主な症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学習する。
到達目標	筋・骨格系疾患の主な症候・皮疹の観察・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方を説明できる。 皮膚系疾患の主な症候・皮疹の観察・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方を説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト」(へるす出版)
留意点 備考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。
------	------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	筋骨格系疾患 1	筋骨格系疾患の総論、主要症候、基本的対応 の 理解 と 習得
2	筋骨格系疾患 2	脊椎疾患 の 原因 病態 症状 診断 治療法 の 理解 と 習得
3	筋骨格系疾患 3	関節疾患 の 原因 病態 症状 診断 治療法 の 理解 と 習得
4	筋骨格系疾患 4	筋疾患 の 原因 病態 症状 診断 治療法 の 理解 と 習得
5	皮膚系疾患 1	皮膚系疾患の総論、主要症候、基本的対応 の 理解 と 習得
6	皮膚系疾患 2	皮膚・軟部組織の感染症 の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得
7	皮膚系疾患 3	皮膚アレルギー疾患 の 原因 病態 症状 診断 治療法 の 理解 と 習得
8	終講義試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	産婦人科救急			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Obstetric & Gynecologic Emergencies			総時間数	16	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水月	時 限	1・2・3・4

担当教員	藤田 太輔	実務者経験	<p>【藤田太輔】</p> <p>2001年4月より現在まで大阪医科大学産婦人科教室に所属し、産婦人科診療および治療を行う。</p> <p>2010年より大阪府消防学校 専科教育救急科で産婦人科・周産期について年2回（計8時間）講義を行っている。</p>
------	-------	-------	---

学習内容	産婦人科疾患・周産期疾患の特殊性と症状・評価・鑑別・救急処置・分娩の介助
到達目標	救急救命士として必要な、産婦人科救急への理解、車内分娩の対応など産婦人科領域を習得できる

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士 標準テキスト 第10版 出版社（へるす出版 ）
留意点 備考	

成績評価	終講義試験（筆記）
------	-----------

コマ数	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	正常妊娠	正常妊娠について 1. 受精と着床, 2. 胎児, 3. 胎児付属物, 4. 妊娠週数, 5. 妊娠による母体の変化
2	異常妊娠	1. 妊娠初期の異常 1) 流産/2) 異所性妊娠(子宮外妊娠)/3) 胎状奇胎 1) 切迫早産。前期破水/2) 妊娠高血圧症候群/3) 子癇/4) HELLP症候群/5) 前置胎盤/6) 常位胎盤早期剥離/7) 子宮内胎児死亡
3	正常分娩 異常分娩	正常分娩の経過について、分娩介助について
4	女性生殖器 疾患	1. 骨盤内感染症 2. 卵巣嚢腫茎捻転 3. 子宮筋腫 4. 子宮内膜症 5. 卵巣出血
5	新生児の観察 分娩のビデオ実習	1) 気道確保・呼吸促進/2) 踏帯切断/3) 新生児仮死/4) 新生児救急蘇生法/5) 新生児の搬送法/6) 搬送に必要な備品 3. 医療機関選定

6	分娩実習	分娩シミュレータを使用して分娩介助について
7	近畿救急医学研究会 第152回救急隊員部会講演	院外分娩についての対応について
8	まとめと試験	質疑応答、まとめ 終講義試験の実施

救急救命士学科

科目名	精神科救急			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Psychiatric Disorder			総時間数	16	単位	1
学年	2	学期	後期	曜日	月	時限	1・2

担当教員	堺 景子	実務者経験	1991年5月より現在まで大学附属病院、精神科病院等で精神科医として勤務
------	------	-------	--------------------------------------

学習内容	救急の現場でよくみられる代表的な精神疾患について、症状、診断、治療について学ぶ。 向精神薬の作用や副作用についても学ぶ。
到達目標	症候から精神疾患の鑑別診断ができる。学んだ精神疾患の症状や向精神薬の副作用等について理解し、実際に救急の現場で活用でき、かつ救急救命士国家試験に対応できるレベルに達する。

準備学習 時間外学習	教科書で予習する
使用教材	救急救命士標準テキスト改定第10版（へるす出版）
留意点 備考	講義時に配布したプリントを復習しておく。

成績評価	終講義試験、100%で評価する。
------	------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	精神医学概論 1	精神科医療の歴史と現状／精神疾患の診断 精神科医療の歴史と現状について説明ができる。／精神疾患の診断分類について説明ができる。
2	精神医学概論 2	精神症状／法律 精神症状について説明ができる。／精神保健福祉法について説明ができる。
3	精神医学概論 3	精神症状の観察と対応 攻撃性・暴力、自殺未遂例への対応について説明ができる。
4	精神医学各論 1	精神疾患 1 統合失調症、気分障害の病態及び治療について説明ができる。
5	精神医学各論 2	精神疾患 2 器質性精神障害、精神作用物質による精神および行動の障害等の病態及び治療について説明ができる。
6	精神医学各論 3	精神疾患 3／薬物治療 摂食障害、パーソナリティ障害等の病態及び治療について説明ができる。／薬物治療と薬の副作用について説明ができる。
7	まとめ	1～6回の講義で学んだことの復習 国家試験の問題等を用いて復習し、知識の定着をはかる。
8	試験	後期試験
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学総括			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Brushing up of Emergency Medicine of Diseases			総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	通年	曜日	期間中随時	時限	期間中随時

担当教員	大崎 聖敏 矢野 博之 豊田 日出美	実務者経験	10年の消防経験(H19. 救急救命士)挿管・薬剤認定 3年の消防経験(H10. 救急救命士)その後、看護師として12年の臨床経験(H20. 看護師) 18年 看護師としての臨床経験(H6. 救急救命士)
------	--------------------------	-------	--

学習内容	1 救急疾患に関係の深い各疾患の病態と症候を学習する。 2 救急疾患に関係の深い各疾患における観察と判断を学習する。 3 救急疾患に関係の深い各疾患における搬送時のポイントを学習する。
到達目標	1 疾病救急医学のうち標準テキストに記載されている小児・高齢者を除いた13項目について各項目の知識を身につける。 2 疾病救急医学で学んだ知識を活動時に応用する。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読
使用教材	救急救命士 標準テキスト第10版(へるす出版)
留意点 備考	

成績評価	五肢択一もしくは択二の筆記試験で評価する。
------	-----------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	疾病救急医学	【神経系疾患総括】
2	疾病救急医学	【血液・免疫系疾患総括】
3	疾病救急医学	【代謝・内分泌・栄養疾患総括】
4	疾病救急医学	【呼吸器系疾患総括】
5	疾病救急医学	【循環系疾患総括】
6	疾病救急医学	【消化系疾患総括】
7	疾病救急医学	【泌尿・生殖器疾患総括】
8	疾病救急医学	【筋・骨格系疾患総括】
9	疾病救急医学	【皮膚系疾患総括】
10	疾病救急医学	【眼・耳・鼻の疾患総括】
11	疾病救急医学	【感染症総括】
12	疾病救急医学	【妊娠・分娩と救急疾患総括】
13	疾病救急医学	【精神障害総括】
14	まとめ	
15	試験	

救急救命士学科

科目名	一般外傷			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Trauma			総時間数	45	単 位	3
学 年	2	学 期	通年	曜 日	火土	時 限	3・4

担当教員	呉 教東	実務者経験	日本救急医学会専門医・指導医として実務経験あり 評議員（前）：日本救急医学会・日本臨床救急医学会・日本脳神経外傷学会
------	------	-------	---

学習内容	各外傷についての受傷機転、発生機序、病態、症状、評価・鑑別、予後や救急処置・搬送方法等について理解できる。
到達目標	外傷の受傷機転別に受傷形態、外傷分類、病態生理を理解することで外傷の現場活動のポイントを整理する。 各種外傷（頭部外傷、顔面頸部外傷、脊椎脊髄外傷、胸部外傷、腹部外傷、骨盤外傷、四肢外傷、皮膚軟部組織外傷、小児高齢者妊婦の外傷）別に、疫学、受傷機転、病態生理、現場活動における注意点につき学習する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト、ほか。
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験
------	------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	外傷総論	外傷の疫学、受傷機転、外傷分類、受傷形態につき学習する。
2	外傷総論	外傷の疫学、受傷機転、外傷分類、受傷形態につき学習する。
3	外傷の病態生理	外傷時の生体反応（循環動態、炎症性メディエータ）につき学習する。
4	外傷の病態生理	外傷時の生体反応（循環動態、炎症性メディエータ）につき学習する。
5	外傷の病態生理/外傷の現場活動	外傷時の生体反応につき学習する。
6	外傷の病態生理/外傷の現場活動	外傷時の現場活動の要点・注意点につき学習する。
7	外傷の現場活動	外傷時の現場活動の要点
8	外傷の現場活動	・注意点につき学習する。
9	頭部外傷	頭部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
10	頭部外傷	頭部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
11	顔面・頸部外傷	顔面・頸部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
12	まとめ・試験	まとめ（国家試験問題他）と終講義試験
13	脊椎・脊髄外傷	脊椎・脊髄外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
14	脊椎・脊髄外傷	脊椎・脊髄外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
15	胸部外傷	胸部外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。

16	胸部外傷	胸部外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
17	腹部外傷	腹部外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
18	腹部外傷	腹部外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
19	骨盤外傷	骨盤外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
20	骨盤外傷	骨盤外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
21	四肢外傷、 皮膚・軟部組織外傷	四肢外傷・皮膚軟部組織外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。 同傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
22	小児・高齢者・妊婦の 外傷、	小児・高齢者・妊婦の外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。同傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
23	まとめ・試験	まとめと終講義試験

救急救命士学科

科目名	特殊外傷(熱傷電撃症化学損傷・異物縊頸刺咬傷)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Burn・Foreign Body, Hanging, Sting & Bite			総時間数	16	単位	熱傷電撃症化学損傷と合わせて1
学年	2	学期	前期	曜日	水	時限	4

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	異物縊頸刺咬傷などの特殊外傷の病態生理、症状・評価・鑑別・余語・救急処置・搬送方法 などを中心に学習する。熱傷電撃症化学損傷などの特殊外傷の病態生理、症状・評価・鑑別・余語・救急処置・搬送方法 などを中心に学習する。
到達目標	異物縊頸刺咬傷の病態・分類・主な症候・危険因子・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方・処置を説明できる。熱傷電撃症化学損傷異物縊頸刺咬傷の病態・分類・主な症候・危険因子・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方・処置を説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト」(へるす出版)
留意点 備考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。
------	------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	異物・縊頸・刺咬傷 1	気道異物・消化管異物の原因病態症状診断治療法の理解と習得
2	異物・縊頸・刺咬傷 2	耳目鼻性器の異物・縊頸の原因病態症状診断治療法の理解と習得
3	異物・縊頸・刺咬傷 3	哺乳類・爬虫類による咬傷の原因病態症状診断治療法の理解と習得
4	異物・縊頸・刺咬傷 4	節足動物・海洋生物による刺咬傷の原因病態症状診断治療法の理解と習得
5	熱傷電撃症化学損傷 1	熱傷の病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置の理解と習得
6	熱傷電撃症化学損傷 2	化学損傷の病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置の理解と習得
7	熱傷電撃症化学損傷 3	電撃症・雷撃症の病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置の理解と習得
8	特殊外傷	試験
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	環境障害・急性中毒学(環境障害)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Environmental Diseases			総時間数	12	単 位	急性中毒学と合わせて1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	期間中随時	時 限	3・4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する
------	--------	-------	------------------

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①各傷病について原因と病態生理を理解する。 ②各傷病について適切に判断して処置できる。 ③必要な診療を理解し、適切な医療機関に救急搬送できる。

準備学習 時間外学習	解剖・生理など既習の関連分野を復習する。 テキストの用語について調べておく。受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	熱中症	疫学、病態生理
2	熱中症	観察と対応
3	偶発性低体温症 凍傷	病態生理、観察と処置 発症機序と病態生理、観察と対応
4	溺水 減圧障害	病態生理、観察と処置 発症機序と病態生理、観察と対応
5	高山病 酸素欠乏症 紫外線障害	発症機序と病態生理、観察と対応
6	まとめとテスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、筆記試験を実施する。
7		
8		
9		
10		
11		

救急救命士学科

科目名	環境障害・急性中毒学(急性中毒学)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Poisoning			総時間数	12	単 位	環境障害と合わせて1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月	時 限	3.4

担当教員	横山 恵一	実務者経験	医師、20年間大学病院で救急医療に携わる
------	-------	-------	----------------------

学習内容	中毒の病態、症状、評価、鑑別、予後や救急処置、搬送方法等を学ぶ
到達目標	救急救命士に必要な 急性中毒について理解し、適切な対応について説明できる。

準備学習 時間外学習	事前にテキストの閲読、講義ごとの復習が必要
使用教材	救急救命士標準テキスト改定第10版
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	中毒総論	定義、疫学、分類、中毒物質 吸収・代謝・排泄、中毒作用、中毒の判断
2	中毒総論	中毒物質の推定、安全確保 中毒物質等の無保存、緊急度・重症度の判断 医療機関での診療、中毒情報センター
3	中毒各論	医薬品中毒、乱用薬物、農薬中毒
4	中毒各論	工業用品中毒 ガス中毒
5	中毒各論	急性エタノール中毒、自然毒中毒、家庭用品中毒 乱用薬物、現場対応と搬送
6	まとめと試験	
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

救急救命士学科

科目名	外傷救急医学総括			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Brushing up of Emergency Medicine of Traumas			総時間数	30	単位	2
学年	2	学期	通年	曜日	期間中随時	時限	1・2

担当教員	大崎 聖敏 矢野 博之 豊田 日出美	実務者経験	10年の消防経験(H19. 救急救命士) 挿管・薬剤認定 3年の消防経験(H10. 救急救命士) その後、看護師として12年の臨床経験(H20. 看護師) 18年 看護師としての臨床経験(H6. 救急救命士)
------	--------------------------	-------	--

学習内容	1 外傷救急における総論・病態生理・現場活動要領を学習する。 2 外傷救急における各身体部位ごとの外傷を学習する。 3 特殊外傷・環境障害・中毒について学習する。
到達目標	1 外傷救急医学のうち標準テキストに記載されている身体部位ごとの9項目について各項目の知識を身につける。 2 外傷救急医学で学んだ知識を外傷活動要領にリンクさせる。 3 標準テキストに記載されている中毒46項目について知識を身につける。

準備学習 時間外学習	標準テキスト及び作成したハンドブックの閲読
使用教材	救急救命士 標準テキスト第10版（へるす出版）
留意点 備考	

成績評価	五肢択一もしくは択二の筆記試験で評価する。
------	-----------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	外傷救急医学	【外傷総論】
2	外傷救急医学	【病態生理・活動】
3	外傷救急医学	【頭部外傷・顔面・頸部外傷総括】
4	外傷救急医学	【脊椎脊髄外傷・胸部外傷総括】
5	外傷救急医学	【胸部・腹部外傷総括】
6	外傷救急医学	【骨盤外傷・四肢外傷総括】
7	外傷救急医学	【皮膚・小児・高齢者外傷総括】
8	外傷救急医学	【熱傷・化学損傷・電撃症総括】
9	急性中毒学・環境障害	【中毒総論】
10	急性中毒学・環境障害	【中毒各論総括】
11	急性中毒学・環境障害	【異物・溺水・熱中症総括】
12	急性中毒学・環境障害	【偶発性低体温・放射線障害総括】
13	急性中毒学・環境障害	【その他環境障害総括】
14	まとめ	
15	試験	

救急救命士学科

科目名	シミュレーション実習Ⅱ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Simulation Training			総時間数	315	単 位	7
学 年	2	学 期	通年	曜 日	期間中随時	時 限	1・2・3・4

担当教員	大崎 聖敏 矢野 博之 豊田 日出美	実務者経験	10年の消防経験(H19. 救急救命士) 挿管・薬剤認定 3年の消防経験(H10. 救急救命士) その後、看護師として12年の臨床経験(H20. 看護師) 18年 看護師としての臨床経験(H6. 救急救命士)
------	--------------------------	-------	--

学習内容	基本を応用し、現場活動を学ぶ。
到達目標	外傷処置、特定行為の実習を学び、想定訓練に活かせる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士 標準テキスト 第10版 出版社(へるす出版)、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	JPTEC、救急救命処置Ⅱはテストを実施する。
------	-------------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	1年実習 復習	想定患者対応シミュレーション(3事例:3グループ)評価と反省
2	1年実習 復習	想定患者対応シミュレーション(3事例:3グループ)評価と反省
3	1年実習 復習	想定患者対応シミュレーション(3事例:3グループ)評価と反省脳神経解剖復習含む
4	1年実習 復習	想定患者対応シミュレーション(3事例:3グループ)評価と反省脳神経解剖復習含む
5	1年実習 復習	脳神経解剖再確認想定患者対応シミュレーション 窒息、外傷、意識障害等 グループ演習
6	1年実習 復習	脳神経解剖再確認想定患者対応シミュレーション 窒息、外傷、意識障害等 グループ演習
7	1年実習 復習	脳神経解剖再確認想定患者対応シミュレーション 窒息、外傷、意識障害等 グループ演習
8	1年実習 復習	脳梗塞の種類と病態、前駆症状など復習想定患者対応シミュレーション (3事例 3グループ)
9	気道の確保 声門上デバイス	* 声門上デバイス(ラリゲアルマスク、ラリゲアルチューブ、コンビチューブ、スミウエイチューブ、アイジェル)の使用法説明とグループ実習
10	気道の確保 声門上デバイス	* 声門上デバイス(ラリゲアルマスク、ラリゲアルチューブ、コンビチューブ、スミウエイチューブ、アイジェル)の使用法説明とグループ実習
11	声門上ディバ イスによる対応	* 声門上デバイス(ラリゲアルマスク、ラリゲアルチューブ、コンビチューブ、スミウエイチューブ、アイジェル)の使用法説明とグループ実習
12	声門上ディバ イスによる対応	* 声門上デバイス(ラリゲアルマスク、ラリゲアルチューブ、コンビチューブ、スミウエイチューブ、アイジェル)の使用法説明とグループ実習
13	声門上ディバ イスによる対応	事例として流れを通じ、一つ一つの基本技術も確実にする
14	声門上ディバ イスによる対応	事例として流れを通じ、一つ一つの基本技術も確実にする

15	窒息患者(声門上デバイス対応)	出血によるホルモン分泌反応、圧挫症候群、出血量推定、脳ヘルニア所見と各種の脳ヘルニア、硬膜下・硬膜外血腫、脊髄不全損傷のタイプ、四肢の急性阻血症状など
16	窒息患者(声門上デバイス対応)	出血によるホルモン分泌反応、圧挫症候群、出血量推定、脳ヘルニア所見と各種の脳ヘルニア、硬膜下・硬膜外血腫、脊髄不全損傷のタイプ、四肢の急性阻血症状など
17	窒息患者(声門上デバイス使用)	グループ実習
18	窒息患者(声門上デバイス使用)	グループ実習
19	窒息患者(声門上デバイス使用)	グループ実習
20	窒息患者(声門上デバイス使用)	グループ実習
21	窒息患者(声門上デバイス使用)	グループ実習
22	窒息患者(声門上デバイス使用)	グループ実習
23	窒息患者(声門上デバイス使用)	スピードを求めず確実性。
24	窒息患者(声門上デバイス使用)	スピードを求めず確実性。
25	窒息患者(声門上デバイス使用)	グループ実習
26	窒息患者(声門上デバイス使用)	グループ実習
27	窒息患者(声門上デバイス使用)	グループ実習
28	窒息患者(声門上デバイス使用)	グループ実習
29	窒息患者(声門上デバイス使用)	グループ実習
30	窒息患者(声門上デバイス使用)	グループ実習
31	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
32	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
33	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
34	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
35	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
36	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
37	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
38	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
39	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
40	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
41	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
42	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
43	気管挿管	気管挿管講義

44	気管挿管	気管挿管講義
45	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
46	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
47	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
48	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
49	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
50	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
51	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
52	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
53	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
54	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
55	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
56	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
57	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル試験
58	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル試験
59	静脈路確保	静脈路確保の目的資器材一式の取り扱い説明
60	静脈路確保	静脈路確保の目的資器材一式の取り扱い説明
61	気管挿管	気管挿管実技
62	気管挿管	気管挿管実技
63	静脈路確保	資機材一式の取り扱い再確認 模擬血管穿刺の実施
64	静脈路確保	資機材一式の取り扱い再確認 模擬血管穿刺の実施
65	静脈路確保	資機材一式の取り扱い再確認模擬血管穿刺の実施
66	静脈路確保	資機材一式の取り扱い再確認模擬血管穿刺の実施
67	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
68	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
69	静脈路確保	輸液作成から静脈路確保の手順 配布輸液作成から模擬血管穿刺の実施
70	静脈路確保	輸液作成から静脈路確保の手順 配布輸液作成から模擬血管穿刺の実施
71	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
72	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施

73	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
74	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
75	静脈路確保デバイスJPTEC	反復訓練
76	静脈路確保デバイスJPTEC	反復訓練
77	静脈路確保 薬液投与	輸液の目的、対象傷病者、薬品についてグループ学習 輸液路確保、薬液投与の訓練
78	静脈路確保 薬液投与	輸液の目的、対象傷病者、薬品についてグループ学習 輸液路確保、薬液投与の訓練
79	静脈路確保 薬液投与	輸液の目的、対象傷病者、薬品についてグループ学習 輸液路確保、薬液投与の訓練
80	静脈路確保 薬液投与	輸液の目的、対象傷病者、薬品についてグループ学習 輸液路確保、薬液投与の訓練
81	徽章授与式演習	徽章授与式演習の担当決定各担当グループで演習
82	徽章授与式演習	徽章授与式演習の担当決定各担当グループで演習
83	徽章授与式演習	各グループで演習
84	徽章授与式演習	各グループで演習
85	府立消防学校 見学	大阪府立消防学校第104回初任教育実科査閲見学(9時から11時)
86	府立消防学校 見学	大阪府立消防学校第104回初任教育実科査閲見学(9時から11時)
87	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
88	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
89	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
90	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
91	礼式訓練 輸液路確保、薬液投与	礼式訓練/輸液路確保/薬液投与練習と実技テスト
92	礼式訓練 輸液路確保、薬液投与	礼式訓練/輸液路確保/薬液投与練習と実技テスト
93	礼式訓練 輸液路確保、薬液投与	礼式訓練/輸液路確保/薬液投与練習と実技テスト
94	礼式訓練 輸液路確保、薬液投与	礼式訓練/輸液路確保/薬液投与練習と実技テスト
95	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
96	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
97	特定行為	静脈路確保実技テスト
98	特定行為	静脈路確保実技テスト
99	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
100	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
101	特定行為	訓令礼式静脈路確保実技試験

102	特定行為	訓令礼式静脈路確保実技試験
103	特定行為	訓令礼式静脈路確保実技試験
104	特定行為	訓令礼式静脈路確保実技試験
105	特定行為	静脈路確保実技試験ビデオ喉頭鏡
106	特定行為	静脈路確保実技試験ビデオ喉頭鏡
107	特定行為	静脈路確保実技試験ビデオ喉頭鏡
108	特定行為	静脈路確保実技試験ビデオ喉頭鏡
109	気管挿管	気管挿管実技、試験
110	気管挿管	気管挿管実技、試験
111	徽章授与式 演習	淀川河川敷にて礼式訓練
112	徽章授与式 演習	淀川河川敷にて礼式訓練
113	特定行為	ビデオ喉頭鏡各グループ実技演習
114	特定行為	ビデオ喉頭鏡各グループ実技演習
115	特定行為	ビデオ喉頭鏡各グループ実技演習
116	特定行為	ビデオ喉頭鏡各グループ実技演習
117	演習	徽章授与式訓練
118	演習	徽章授与式訓練
119	観察	血圧測定・脈拍高研人形での観察ストレッチャー使用方法
120	観察	血圧測定・脈拍高研人形での観察ストレッチャー使用方法
121	基礎技術 復習	ストレッチャーの扱いバイタルサイン測定(脈拍、頸静脈怒張、呼吸音、心音、血圧)
122	基礎技術 復習	ストレッチャーの扱いバイタルサイン測定(脈拍、頸静脈怒張、呼吸音、心音、血圧)
123	基礎技術 復習	バイタルサイン(血圧測定)三角巾ロープ
124	基礎技術 復習	バイタルサイン(血圧測定)三角巾ロープ
125	基礎技術 復習	バイタルサイン(血圧測定)三角巾ロープ
126	基礎技術 復習	バイタルサイン(血圧測定)三角巾ロープ
127	基礎技術 復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、ストレッチャー扱い、
128	基礎技術 復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、ストレッチャー扱い、
129	基礎技術 復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、ストレッチャー扱い、
130	基礎技術 復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、ストレッチャー扱い、

131	基礎技術復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、血糖測定
132	基礎技術復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、血糖測定
133	POT	バイタル～病態を読み取る
134	POT	バイタル～病態を読み取る
135	POT	バイタル～病態を読み取る
136	POT	バイタル～病態を読み取る
137	解剖実習	大阪大学へ解剖実習
138	実習前研修	オリエンテーション、記録(チェックリスト・評価表・薬剤投与記録・実習記録)
139	実習前研修	各病院の説明(前年度同施設実習生代表が入ってのグループミーティング)
140	実習前研修	輸液について、ドレーン管理について
141	実習前研修	患者搬入・初療室の流れについて、初療室・ICUの1日の流れについて、重症患者の観察、救急での検査・器材・薬品、救急カートなど
142	実習前研修	実習の計画(初日の実習目標・実習項目を挙げ、それについての予習)記録について考察の考え方
143	実習前研修	十二誘導心電図の測定法
144	実習前研修	気管内吸引・気管チューブの固定、カフ圧の理解・測定など
145	実習前研修	フィジカルアセスメント
146	実習前研修	静脈ルート(血管の選択、皮膚消毒、穿刺、固定法など)血糖測定 静脈ルート(ルート作成、三方活栓の使用法・エピネフリン・ブドウ糖溶液の投与方法など)
147	実習前研修	感染予防(病院の清潔管理・清潔操作・手洗い方法、手指消毒法、)時間が余れば、ガウンテクニック・グローブ着脱など
148	実習前研修	車椅子の使用法、ベットでの患者搬送(時間があれば、患者移動法、シーツ交換、清拭、体位交換)
149	実習前研修	集中治療における酸素療法の選択(高、低流量システム)
150	実習前研修	〃
151	実習前研修	血液浄化療法の特徴、実際の使用法について
152	実習前研修	〃
153	実習前研修	体外循環療法の特徴、実際の使用法について
154	実習前研修	〃
155	病院実習レポート	病院実習のレポート作成
156	病院実習レポート	病院実習のレポート作成
157	病院実習レポート	病院実習のレポート作成
158	病院実習レポート	病院実習のレポート作成

救急救命士学科

科目名	救急用自動車・同乗実習 I			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Ambulance Training			総時間数	45	単 位	1
学 年	2	学 期	通年	曜 日	期間中随時	時 限	1・2・3・4

担当教員	大崎 聖敏 矢野 博之 豊田 日出美	実務者経験	10年の消防経験(H19. 救急救命士) 挿管・薬剤認定 3年の消防経験(H10. 救急救命士) その後、看護師として12年の臨床経験(H20. 看護師) 18年 看護師としての臨床経験(H6. 救急救命士)
------	--------------------------	-------	--

学習内容	学内にある救急自動車を使用し、訓練する。
到達目標	救急自動車内での対応ができる。

準備学習 時間外学習	実技を各自で行う。
使用教材	救急救命士 標準テキスト 第10版 出版社(へるす出版)、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	
------	--

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	搬送法	メインストレッチャーの曳行
2	搬送法	メインストレッチャーの曳行
3	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
4	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
5	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
6	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
7	救急車内の資器材	救急自動車内の資器材の確認
8	救急車内の資器材	救急自動車内の資器材の確認
9	観察	救急自動車内での観察
10	観察	救急自動車内での観察
11	処置	救急自動車内での処置
12	処置	救急自動車内での処置
13	処置	救急自動車内での処置
14	処置	救急自動車内での処置
15	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション

16	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
17	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
18	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
19	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
20	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
21	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
22	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
23	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション

救急救命士学科

科目名	総合救急医療Ⅱ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine			総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	通年	曜 日	期間中随時	時 限	1・2・3・4

担当教員	大崎 聖敏 矢野 博之 豊田 日出美	実務者経験	10年の消防経験(H19. 救急救命士) 挿管・薬剤認定 3年の消防経験(H10. 救急救命士) その後、看護師として12年の臨床経験(H20. 看護師) 18年 看護師としての臨床経験(H6. 救急救命士)
------	--------------------------	-------	--

学習内容	これまでに学んだことを模擬試験で出題する。
到達目標	国家試験に合格できる知識を身につける。

準備学習 時間外学習	これまでに学んだことを自己学習する。
使用教材	
留意点 備 考	

成績評価	
------	--

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	模擬試験	第1回模擬試験
2	模擬試験	第1回模擬試験
3	模擬試験	第2回模擬試験
4	模擬試験	第2回模擬試験
5	模擬試験	第3回模擬試験
6	模擬試験	第3回模擬試験
7	模擬試験	第4回模擬試験
8	模擬試験	第4回模擬試験
9	模擬試験	第5回模擬試験
10	模擬試験	第5回模擬試験
11	模擬試験	第6回模擬試験A
12	模擬試験	第6回模擬試験A
13	模擬試験	第6回模擬試験BCD
14	模擬試験	第6回模擬試験BCD
15		

救急救命士学科

科目名	小児救急疾患			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Pediatric Emergencies			総時間数	32	単 位	2
学 年	3	学 期	前期	曜 日	月	時 限	3・4

担当教員	高屋 淳二	実務者経験	1983年より大学病院および市中病院で小児科診療および教育と研究に従事。
------	-------	-------	--------------------------------------

学習内容	小児・新生児疾患の特殊性と症状・評価・鑑別・救急処置を中心に理解できる。
到達目標	小児・新生児の特性と分類、生理学的特長、観察と判断・応急処置と搬送法、小児に特有な救急疾患について理解し説明ができる。

準備学習 時間外学習	テキストの用語の読み方や意味を調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。過去問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	染色体異常・先天異常	染色体異常・先天異常 の特徴を理解する
2	新生児	新生児疾患とその疾患を理解する
3	代謝疾患	糖尿病、ケトアシドーシス、その合併症の病態を理解する
4	内分泌疾患	副腎疾患、小児の甲状腺疾患を理解する
5	免疫・アレルギー	アレルギーのしくみとその疾患について知る
6	膠原病 川崎病	膠原病や川崎病とその病状を理解する
7	呼吸器疾患	喘息やクループへの対応方を知る
8	感染症 1	代表的なウイルス感染症を理解する
9	感染症 2	代表的な細菌感染症を理解する
10	循環器疾患	先天性心疾患を知る
11	血液・腫瘍疾患	小児の白血病、貧血、固形腫瘍を理解する
12	消化器疾患	新生児から小児の消化器疾患を理解する
13	神経疾患 1	水頭症やてんかん
14	神経疾患 2	熱性痙攣への対応、その他の痙攣
15	小児の成長	小児の成長の特徴を理解する
16	小児の成長	まとめ

救急救命士学科

科目名	高齢者救急疾患			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Geriatric Emergencies			総時間数	16	単位	1
学年	3	学期	前期	曜日	期間中随時	時限	1・2

担当教員	奥元 隆昭 金村 諭司	実務者経験	18年の消防経験(H8.救急救命士) 32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定
------	----------------	-------	---

学習内容	高齢社会となり、増加し続ける高齢者の救急搬送に対応できるように高齢者の特徴等を学習する。
到達目標	高齢者の身体所見の特徴と特有の疾患を理解し、説明することができ、国家試験において一般問題だけでなく、症例問題にも十分に対応できる知識を身につける。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読と予習復習プリントの実施
使用教材	救急救命士 標準テキスト 第9版または10版 出版社（へるす出版）
留意点 備考	

成績評価	五肢択一もしくは択二の筆記試験で評価する。
------	-----------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	高齢者の特徴	加齢による身体機能の変化について
2	高齢者の特徴	高齢者の特徴からの現場活動での注意点
3	高齢者に特有の疾患	脳血管障害とそれに伴う症状
4	高齢者に特有の疾患	認知症（アルツハイマー病など）とそれに伴う症状
5	高齢者に特有の疾患	肺炎、COPDとそれに伴う症状
6	高齢者に特有の疾患	虚血性腸炎、前立腺肥大症、廃用症候群とそれに伴う症状
7	高齢者に特有の疾患 外傷	骨粗鬆症、脊椎圧迫骨折、四肢の骨折
8	まとめ	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	シミュレーション実習Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Simulation Training			総時間数	315	単位	7
学年	3	学期	通年	曜日	期間中随時	時限	1・2・3・4

担当教員	奥元 隆昭 金村 諭司	実務者経験	18年の消防経験(H8.救急救命士) 32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定
------	----------------	-------	---

学習内容	基礎を振り返り、想定訓練を行う。
到達目標	現場対応が十分にできる。また国家試験の症例問題に十分に対応できる。

準備学習 時間外学習	実技を各自で行う。
使用教材	救急救命士 標準テキスト 第9版または10版 出版社(へるす出版)、配布プリント
留意点 備考	

成績評価	
------	--

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	規律訓練	各個訓練、行進要領
2	規律訓練	各個訓練、行進要領
3	規律訓練	各個訓練、行進要領
4	規律訓練	各個訓練、行進要領
5	想定訓練	心筋梗塞・意識障害・呼吸不全・腰痛等
6	想定訓練	心筋梗塞・意識障害・呼吸不全・腰痛等
7	想定訓練	心筋梗塞・意識障害・呼吸不全・腰痛等
8	想定訓練	心筋梗塞・意識障害・呼吸不全・腰痛等
9	ガイダンス	就職合同ガイダンス準備
10	ガイダンス	就職合同ガイダンス準備
11	ガイダンス	就職合同ガイダンス準備
12	ガイダンス	就職合同ガイダンス準備
13	ガイダンス	ガーデンパレスにて合同就職ガイダンス各消防及び民間対応:救急救命士学科教員キャリアセンター
14	ガイダンス	ガーデンパレスにて合同就職ガイダンス各消防及び民間対応:救急救命士学科教員キャリアセンター
15	ガイダンス	ガーデンパレスにて合同就職ガイダンス各消防及び民間対応:救急救命士学科教員キャリアセンター
16	ガイダンス	ガーデンパレスにて合同就職ガイダンス各消防及び民間対応:救急救命士学科教員キャリアセンター
17	規律訓練	各個訓練

18	規律訓練	各個訓練
19	規律訓練	各個訓練
20	規律訓練	各個訓練
21	想定訓練	心筋梗塞・意識障害・呼吸不全・腰痛等
22	想定訓練	心筋梗塞・意識障害・呼吸不全・腰痛等
23	想定訓練	心筋梗塞・意識障害・呼吸不全・腰痛等
24	想定訓練	心筋梗塞・意識障害・呼吸不全・腰痛等
25	J P T E C	シミュレーション
26	J P T E C	シミュレーション
27	J P T E C	シミュレーション
28	J P T E C	シミュレーション
29	J P T E C	シミュレーション
30	J P T E C	シミュレーション
31	J P T E C	シミュレーション
32	J P T E C	シミュレーション
33	J P T E C	シミュレーション
34	救急救命処置	チューブ
35	救急救命処置	チューブ
36	救急救命処置	チューブ
37	救急救命処置	チューブ
38	想定訓練	シミュレーション
39	想定訓練	シミュレーション
40	想定訓練	シミュレーション
41	想定訓練	シミュレーション
42	想定訓練	シミュレーション
43	想定訓練	シミュレーション
44	想定訓練	シミュレーション
45	想定訓練	シミュレーション
46	想定訓練	シミュレーション
47	想定訓練	シミュレーション
48	想定訓練	シミュレーション

49	想定訓練	シミュレーション
50	想定訓練	シミュレーション
51	想定訓練	シミュレーション
52	想定訓練	シミュレーション
53	想定訓練	シミュレーション
54	想定訓練	シミュレーション
55	想定訓練	シミュレーション
56	想定訓練	シミュレーション
57	想定訓練	シミュレーション
58	想定訓練	シミュレーション
59	想定訓練	シミュレーション
60	想定訓練	シミュレーション
61	想定訓練	シミュレーション
62	想定訓練	シミュレーション
63	想定訓練	シミュレーション
64	想定訓練	シミュレーション
65	想定訓練	シミュレーション
66	想定訓練	シミュレーション
67	想定訓練	シミュレーション
68	想定訓練	シミュレーション
69	想定訓練	シミュレーション
70	想定訓練	シミュレーション
71	想定訓練	シミュレーション
72	想定訓練	シミュレーション
73	想定訓練	シミュレーション
74	想定訓練	シミュレーション
75	想定訓練	シミュレーション
76	想定訓練	シミュレーション
77	想定訓練	シミュレーション
78	想定訓練	シミュレーション
79	想定訓練	シミュレーション

80	想定訓練	シミュレーション
81	想定訓練	シミュレーション
82	想定訓練	シミュレーション
83	想定訓練	シミュレーション
84	想定訓練	シミュレーション
85	想定訓練	シミュレーション
86	想定訓練	シミュレーション
87	想定訓練	シミュレーション
88	想定訓練	シミュレーション
89	想定訓練	シミュレーション
90	想定訓練	シミュレーション
91	想定訓練	シミュレーション
92	想定訓練	シミュレーション
93	想定訓練	シミュレーション
94	想定訓練	シミュレーション
95	想定訓練	シミュレーション
96	想定訓練	シミュレーション
97	想定訓練	シミュレーション
98	想定訓練	シミュレーション
99	想定訓練	シミュレーション
100	想定訓練	シミュレーション
101	想定訓練	シミュレーション
102	想定訓練	シミュレーション
103	想定訓練	シミュレーション
104	想定訓練	シミュレーション
105	想定訓練	シミュレーション
106	想定訓練	シミュレーション
107	想定訓練	シミュレーション
108	想定訓練	シミュレーション
109	想定訓練	シミュレーション
110	多言語演習	コミュニケーション能力の向上

111	多言語演習	コミュニケーション能力の向上
112	多言語演習	コミュニケーション能力の向上
113	多言語演習	コミュニケーション能力の向上
114	多言語演習	コミュニケーション能力の向上
115	多言語演習	コミュニケーション能力の向上
116	北摂救命士会	症例検討会参加
117	北摂救命士会	症例検討会参加
118	北摂救命士会	症例検討会参加
119	北摂救命士会	症例検討会参加
120	想定訓練	シミュレーション
121	想定訓練	シミュレーション
122	実技基礎試験	観察
123	実技基礎試験	観察
124	想定訓練	シミュレーション
125	想定訓練	シミュレーション
126	想定訓練	シミュレーション
127	想定訓練	シミュレーション
128	想定訓練	シミュレーション
129	想定訓練	シミュレーション
130	想定訓練	シミュレーション
131	想定訓練	シミュレーション
132	想定訓練	シミュレーション
133	想定訓練	シミュレーション
134	想定訓練	シミュレーション
135	想定訓練	シミュレーション
136	J P T E C	シミュレーション
137	J P T E C	シミュレーション
138	想定訓練	シミュレーション
139	想定訓練	シミュレーション
140	想定訓練	シミュレーション
141	気管挿管訓練	シミュレーション

142	気管挿管訓練	シミュレーション
143	静脈路確保	シミュレーション
144	静脈路確保	シミュレーション
145	静脈路確保	シミュレーション
146	静脈路確保	シミュレーション
147	静脈路確保	シミュレーション
148	想定訓練	シミュレーション
149	想定訓練	シミュレーション
150	想定訓練	シミュレーション
151	想定訓練	シミュレーション
152	想定訓練	シミュレーション
153	想定訓練	シミュレーション
154	想定訓練	シミュレーション
155	想定訓練	シミュレーション
156	想定訓練	シミュレーション
157	想定訓練	シミュレーション
158	想定訓練	シミュレーション

救急救命士学科

科目名	救急用自動車・同乗実習Ⅱ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Ambulance Training			総時間数	45	単位	1
学年	3	学期	通年	曜日	期間中随時	時限	1・2・3・4

担当教員	奥元 隆昭 金村 諭司	実務者経験	18年の消防経験(H8.救急救命士) 32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定
------	----------------	-------	---

学習内容	学内にある救急自動車を使用し、訓練する。 地域の消防本部にて同乗実習を行う。
到達目標	救急自動車内での対応ができる。

準備学習 時間外学習	実技を各自で行う。
使用教材	救急救命士 標準テキスト または10版 出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備考	

成績評価	
------	--

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	搬送法	メインストレッチャーの曳行
2	搬送法	メインストレッチャーの曳行
3	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
4	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
5	観察	救急自動車内での観察
6	処置	救急自動車内での処置
7	処置	救急自動車内での処置
8	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
9	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
10	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
11	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
12	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
13	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
14	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
15	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション

16	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
17	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
18	同乗実習	消防本部での同乗実習
19	同乗実習	消防本部での同乗実習
20	同乗実習	消防本部での同乗実習
21	同乗実習	消防本部での同乗実習
22	同乗実習	消防本部での同乗実習
23	同乗実習	消防本部での同乗実習

救急救命士学科

科目名	総合救急医療Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine			総時間数	20	単位	総合救急医療Ⅱ すべてで10
学年	3	学期	後期	曜日	水	時限	4

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	1990年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	筋骨格系・皮膚系、熱傷電撃症化学損傷・異物溢頸刺咬傷、環境障害、の 総合的理解 と 最終的習得
到達目標	救急救命士として求められる知識を総合的に習得する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト」（へるす出版）
留意点 備考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい

成績評価	国家試験模擬試験
------	----------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	総合救急医療 1	筋骨格系疾患の総論、主要症候、基本的対応、 脊椎疾患 の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得
2	総合救急医療 2	関節疾患、筋疾患 の 原因 病態 症状 診断 治療法 の 理解 と 習得
3	総合救急医療 3	皮膚系疾患の総論、主要症候、基本的対応 の 理解 と 習得
4	総合救急医療 4	皮膚・軟部組織の感染症、アレルギー疾患 の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得
5	総合救急医療 5	気道異物・消化管異物・耳鼻鼻器異物・総頸 の 原因 病態 症状 診断 治療法 の 理解 と 習得
6	総合救急医療 6	哺乳類・爬虫類・節足動物・海洋生物による咬傷 の 原因 病態 症状 診断 治療法 の 理解 と 習得
7	総合救急医療 7	熱傷・化学損傷 の 病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置 の 理解 と 習得
8	総合救急医療 8	電撃症・雷撃症・溺水 の 病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置 の 理解 と 習得
9	総合救急医療 9	熱中症・偶発性低体温症・高山病 の 発生数の特徴 発生機序 分類 観察 処置 の 理解 と 習得
10	総合救急医療 10	減圧障害・酸素欠乏症・凍傷・紫外線による障害 の 症状 分類 観察 処置 の 理解 と 習得
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	総合救急医療Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine Ⅲ			総時間数	40	単位	総合救急医療Ⅲ すべてで10
学年	3	学期	後期	曜日	火土	時限	3・4

担当教員	呉 教東	実務者経験	日本救急医学会専門医・指導医 評議員（前）：日本救急医学会・日本臨床救急医学会・日本脳神経外傷学会
------	------	-------	--

学習内容	過去の国家試験問題の解説、標準テキストの内容から作成した問題の自己学習、学生の疑問点を解説
到達目標	国家試験合格のための知識を習得

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト、過去の国家試験問題、ほか。
留意点 備考	

成績評価	国家試験模擬試験
------	----------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	国家試験対策	過去の国家試験問題からB, C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
2	国家試験対策	過去の国家試験問題からB, C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
3	国家試験対策	過去の国家試験問題からB, C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
4	国家試験対策	過去の国家試験問題からB, C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
5	国家試験対策	過去の国家試験問題からB, C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
6	国家試験対策	過去の国家試験問題からB, C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
7	国家試験対策	過去の国家試験問題からA, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
8	国家試験対策	過去の国家試験問題からA, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
9	国家試験対策	過去の国家試験問題からA, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
10	国家試験対策	過去の国家試験問題からA, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	総合救急医療Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine Ⅲ			総時間数	48	単位	総合救急医療Ⅲ すべてで10
学年	3	学期	後期	曜日	木	時限	3・4

担当教員	岸 正司	実務者経験	病院等で救急医療に30年携わる
------	------	-------	-----------------

学習内容	過去の国家試験問題の解説、標準テキストの内容から作成した問題の自己学習、学生の疑問点を解説
到達目標	国家試験合格のための知識を習得

準備学習 時間外学習	該当内容の予習・復習が必要
使用教材	救急救命士標準テキスト改定第10版、過去の国家試験問題、ほか。
留意点 備考	

成績評価	国家試験模擬試験
------	----------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	呼吸器系疾患	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
2	呼吸器系疾患	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
3	呼吸器系疾患	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
4	呼吸器系疾患	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
5	循環器系疾患	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
6	循環器系疾患	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
7	循環器系疾患	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
8	循環器系疾患	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
9	消化器系疾患	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
10	消化器系疾患	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
11	消化器系疾患	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
12	消化器系疾患	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
13	泌尿・生殖・内分泌疾患	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
14	泌尿・生殖・内分泌疾患	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
15	血液・免疫・アレルギー疾患	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
16	血液・免疫・アレルギー疾患	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
17	その他	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
18	その他	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
19	意識障害	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
20	意識障害	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
21	外傷関係	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
22	外傷関係	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
23	中毒	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
24	中毒	過去の国家試験問題からC, D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題

救急救命士学科

科目名	総合救急医療Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine Ⅲ			総時間数	12	単位	総合救急医療Ⅲ すべてで10
学年	3	学期	後期	曜日	期間中随時	時限	3・4

担当教員	濱田 智子	実務者経験	病院等で歯科医師として診療・治療に10年以上携わる
------	-------	-------	---------------------------

学習内容	専門基礎分野の解説、標準テキストの内容、自己学習、学生の疑問点を解説
到達目標	国家試験合格のための知識を習得

準備学習 時間外学習	該当内容の予習・復習が必要
使用教材	救急救命士標準テキスト改定第10版、過去の国家試験問題、ほか。
留意点 備 考	適宜小テストを実施

成績評価	国家試験模擬試験
------	----------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	炎症	定義・原因・分類に沿って復習し、自己の理解度を上げていくことが出来る。
2	免疫	防御機能・免疫の分類・免疫の流れに沿って復習し、自己の理解度を上げていくことが出来る。
3	感染、生化学	感染症分類・TCAサイクル・血液の分類・静止電位と活動電位
4	代謝系	糖尿病について
5	泌尿器系 酸塩基平衡	ネフロンについて、アルカローシス・アシドーシス
6	中毒	中毒の原因・種類 自己免疫疾患など、学生の苦手分野の総復習
7		
8		
9		
10		
11		

救急救命士学科

科目名	総合救急医療Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine Ⅲ			総時間数	30	単位	総合救急医療Ⅲ すべてで10
学年	3	学期	後期	曜日	期間中随時	時限	1. 2. 3. 4

担当教員	奥元 隆昭 金村 諭司	実務者経験	18年の消防経験(H8. 救急救命士) 32年の消防経験(H7. 救急救命士) 挿管・薬剤認定
------	----------------	-------	--

学習内容	過去の国家試験問題の解説、標準テキストの内容から作成した問題の自己学習、学生の疑問点を解説
到達目標	国家試験合格のための知識を習得

準備学習 時間外学習	該当内容の予習・復習が必要
使用教材	救急救命士標準テキスト改定10版、過去の国家試験問題、ほか。
留意点 備考	

成績評価	国家試験模擬試験
------	----------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	第1回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
2	第1回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
3	第1回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
4	第2回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
5	第2回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
6	第2回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
7	第3回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
8	第3回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
9	第3回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
10	第4回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
11	第4回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
12	第4回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
13	第5回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
14	第5回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
15	第5回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
16	第6回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
17	第6回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
18	第6回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
19	第7回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
20	第7回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
21	第7回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
22	第8回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
23	第8回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
24	第8回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
25	第9回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
26	第9回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
27	第9回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
28	第10回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
29	第10回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習

30	第10回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
31	第11回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
32	第11回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
33	第11回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
34	第12回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
35	第12回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
36	第12回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
37	第13回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
38	第13回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
39	第13回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
40	第14回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
41	第14回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
42	第14回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
43	第15回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
44	第15回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
45	第15回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
46	第16回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
47	第16回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
48	第16回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
49	第17回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
50	第17回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
51	第17回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど